齒科治療

岩内港御鉾内町

下國醫院

院主 下國 翼

電話(二一八番)

△内科△外科△眼科
△皮膚病△黴毒
△ぢ疾△子宮病

岩内港大字[illegible]町

岩内病院

電話(二〇九) 院長 日山日州

◎客室清潔
◎岩内唯一の好地位

高等旅館

岩内港御鉾内町

南河本店 (電話七番)

倶知安停車場前

仝 支店

小澤停車場前

仝 支店

吉川長兵衛

米穀 荒物 雑貨 卸 小売

今井商店

△内科△外科△眼科
△皮膚病△黴毒
△ぢ疾△子宮病

岩内港大字鹰臺町
岩内病院
電話（二〇九） 院長 日山日州

齒科治療

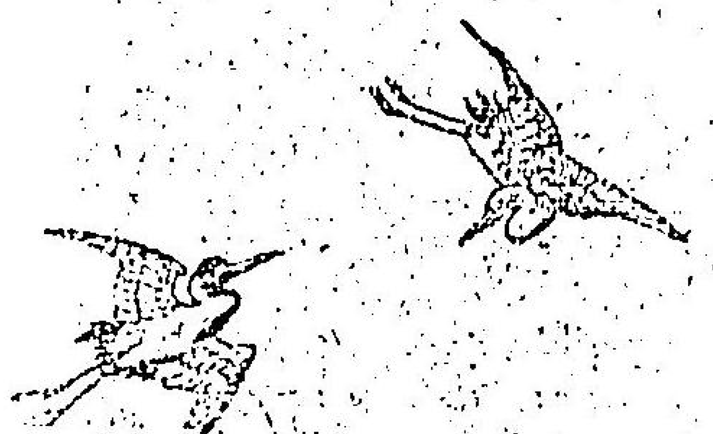
岩内港御鉾内町
下國醫院
院主 下國翼
電話（二一八番）

●客室清潔
●岩内唯一の好地位
高等旅館
岩内港御鉾内町
南河本店
（電話七番）
倶知安停車場前
仝支店
小澤停車場前
仝支店

材木商
岩内町大字橘町
吉川長兵衛
電話（一四五番）

内國通運株式會社取引店
東京三立社取引店
運送株式會社取引店
札幌共同運送組代理店
和田運送部取引店
●岩内及内地各驛接續貨物取扱は獨り當店の特色なり
岩内郡小澤驛前
サ 三富運送店
電略（サ）

米穀荒物雑貨
岩内郡小澤停車場前
今井商店
電略（イマ）又ハ（イ）



鐵道貨物取扱 (大) 八木運送店

取引所

(印)上川運輸合資會社取引店
(印)米林運送部取引店
(印)札幌運輸合資會社取引店
(印)共立社取引店

(印)岩内及内地接續貨物迅速叮嚀取扱ヶ

鐵道貨物積卸及荷造請負

米穀雜貨商

岩内郡小澤驛停車場前

(大) 八木商店

電話ヤギ又ハ(ヤ)

吳服太物

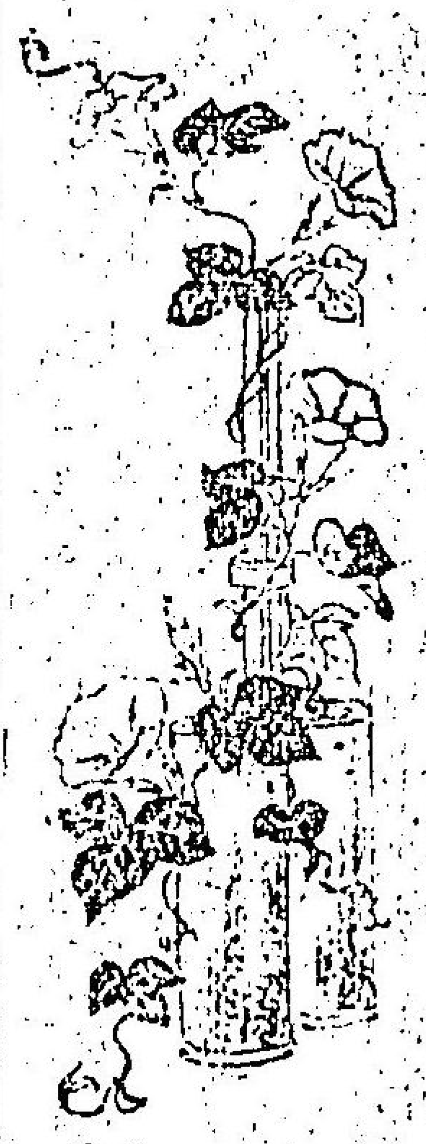
小濱驛停車場前

越後屋

(松) 奥山商店

店主 奥山富作

洋反物雜貨



金物米穀荒物
吳服太物雜貨

目名停車場前

青木榮作

吳服太物
小間物雜貨

昆布停車場前

青木支店

農具打物物建築金具鍋釜
鐵瓶數種天王寺鋸各種

昆布驛

(山)

第三支店 小林久作

プラヲ、ハロー萬鍬メダテ、馬具類其他金物一式

○上川運輸合資會社取引店○北都組代理店

○丸福合資會社丸福組代理店○共立社取引店

各地接續荷物取扱

磯谷郡昆布驛

㊉ 福田運送店

電話（フク）又ハ（サ）

店主 福田佐次郎

○北海運送組代理店○中央運送店取引店

○西谷組代理店○日本組代理店

内外科

磯谷郡昆布驛

日野醫院

院長 日野鶴之助

呉服 太物 金物 雑貨

蘭越停車場前

坪田支店

◎勉強ノ親玉◎

内國通運株式會社取引店

北都組取引店

北海道運送株式會社取引店

蘭越停車場前

各地貨物取扱

㊟ 亀山運送店

旅館 亀山見道

藥種賣藥雑貨

味噌糀製造業

磯谷郡蘭越停車場前

勝間清五郎

電話（カツマ）

◎上川運輸合資會社取引店◎北部組代理店
◎丸通合資會社丸通組代理店◎共立運送取引店

各地
接續
荷物
取扱

(福)

磯谷郡昆布驛

福田運送店

電略（フクダ）

店主 福田仁太郎

◎北海運送組代理店◎中央運送店取引店
◎西谷組代理店◎日本組代理店

内外科

磯谷郡昆布驛

日野醫院

院長 日野鶴之助

呉服
太物
金物
雜貨

(十)

蘭越停車場前

坪田支店

◎勉強ノ親玉◎

内國通運株式會社取引店
北部組取引店
北海道運送株式會社取引店

各地貨物取扱

(通)

蘭越停車場前

龜山運送店

旅館 龜山見道

樂種賣藥雜貨
味噌糀製造 業

(七)

磯谷郡蘭越停車場前

勝間清五郎

電略（カツマ）

米穀
荒物
呉服
太物
雜貨

南尻別村目名
木村才一郎
電畧（キ）

高等旅館
目名停車場前
村田旅館
◎客室清潔懇切勉强
◎伍置停車場前ニテ便宜ナリ

内國通運株式會社取引店
接續貨物取扱
目名停車場前
村田運送店

内外眼科一般
高山醫院
院長 高山豊機

米穀荒物
呉服太物
農産賣買
商
南尻別村目名
笠井商店
電畧（○井）

米穀
荒物
農産
賣買
電畧（ム）
村山支店
主任 平野茂
熱郛停車場前

登録商標

醬油
味噌

小樽港奥澤
釀造元 ヨ 石橋彦三郎
電話三十五番

原料を精撰し色合の美風味の佳良、價格低廉各位の嗜好に適す
販賣所は全國到る處の各商店にあり

小樽港稻穗町角
同販賣店
電話四十五番

◉世良田賢秀君（古宇郡泊村刀圭家）

世良田君は古宇郡に於ける盛名ある醫師なり泊村に村醫として在住する前後十有三年餘其如何に村民の信頼を得つゝあるかは此の一事に徴して知り得べし、世良田氏伯耆の人、元治元年三月六日を以て同國西伯郡成實村字石井に生る先考は良忠氏、家代々醫を業とす氏不幸にして幼弱、父母に死別し　世良田の家祀絶ゑ、僅に外戚の親に養はる少壯發奮志を立て醫を以て絶家を興し、祖宗の靈を祀り先考の志を完ふせんを期し踴躍東都に出で、首尾好く濟生學舍に入る、苦學二星霜にして學資の途絶ゑ、又如何とも策なし、氏涙を吞んで退舍し獨學以て志を遂せんを決し、身を活版職工の群に投じ、汲乎として學資を得るに奮勵し、傍ら醫書を涉獵して獨り苦學す、氏の境遇眞に同情すべき也、然れども氏屈せず奮闘す、明治十六年横濱の開業醫島好篤氏深く氏の意氣を壯なりとし、其の門に入り醫學を敎ゆ、氏初めて專心醫業を研鑽するを得て學大に進み、十九年十一月開業醫前期試驗に及第し、廿年後期試驗並に實地試驗に及第し、玆に氏の志遂せられ首尾好く開業醫となり翌廿一年十一月本道空知監獄の聘に應じて獄醫として來道し、醫務を執り廿三年辭職し、炭礦會社囑托醫となりて幌內に在住し、廿六年函館に出で獨立門戶を張り大に其の名を揚ぐ廿八年八月古宇郡泊村の村醫在任久しからず屢々更迭さるゝを聞き同村村醫と爲つてより其の職にある十有餘年、村民の信賴頗ぶる篤く名聲岩宇の地に嘖々たり、思ふに世良田氏や獨立苦學開業醫となり以て今日を來せるものと謂つべし刀圭界の傑と。

登録商標

醤油
味噌

小樽港奥澤
醸造元 石橋彦三郎 電話三十五番
原料を精撰し色合の美風味の佳良、價格低廉各位の嗜好に適す
販賣所は全國到る處の各商店にあり
小樽港稲穂町角
同 販賣店 電話四十五番

◉世良田賢秀君　（古宇郡泊村刀圭家）

世良田君は古宇郡に於ける盛名ある醫師なり泊村に村醫として在住する前後十有三年餘其如何に村民の信頼を得つゝあるかは此の一事に徴して知り得べし、世良田氏伯耆の人、元治元年三月六日を以て同國西伯郡成實村字石井に生る先考は良忠氏、家代々醫を業とす氏不幸にして幼弱、父母に死別し　世良田の家祀絶え、僅に外戚の親に養はる少壯發奮志を立て醫を以て絶家を興し、祖宗の靈を祀り先考の志を完ふせんを期し踴躍東都に出で、首尾好く濟生學舍に入る、苦學二星霜にして學資の途絶え、又如何とも策なし、氏涙を呑んで退舍し獨學以て志を遂せんを決し、身を活版職工の群に投じ、汲平として學資を得るに奮勵し、傍ら醫書を渉獵して獨り苦學す、氏の境遇眞に同情すべき也、然れども氏屈せず奮闘す、明治十六年横濱の開業醫島好篤氏深く氏の意氣を壯なりとし、其の門に入り醫學を敎ゆ、氏初めて專心醫業を研鑽するを得て學大に進み、十九年十一月開業醫前期試驗に及第し、廿年後期試驗並に實地試驗に及第し、茲に氏の志遂せられ首尾好く開業醫となり翌廿一年十一月本道空知監獄の聘に應じて獄醫として來道し、醫務を執り廿三年辭職し、炭礦會社囑托醫となりて幌内に在住し、廿六年函館に出で獨立門戶を張り大に其の名を揚ぐ廿八年八月古宇郡泊村の村醫在任久しからず屢々更迭さるゝを聞き同村村醫と爲つてより其の職にある十有餘年、村民の信頼頗ぶる篤く名聲岩宇の地に嘖々たり、思ふに世良田氏や獨立苦學開業醫となり以て今日を來せるものと謂つべし刀圭界の傑と。

◉曲ト印谷内商店(古宇郡泊村)　店主龜次郎氏は能登の人、大谷村字仁江村に生る、明治の當初、現地に來り後、吳服太物米穀荒物海產雜貨の類を開業するに及んで、忽ち名聲を傳へられしも古稀六十有餘の壽齡を重ねて息万作氏をして經營に當らしむ、氏使ふ所の雇人を遇するに愛を以てし、雇人亦主を敬つて忠實に仕ふ、之れ同店の華なり豈に隆來の極知るべき也。

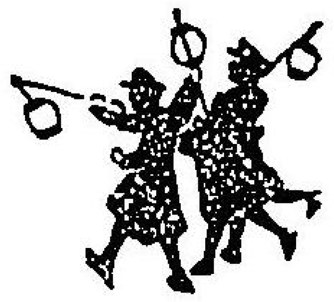
◉曲忠印釀造店(古宇郡泊村字茅沼)　經營の主武井松兵衞君は地方有望の人、賢志に富み商事熱心他あるなく、其營む業は淸酒を釀すにあり倉内淸宏幾多の槽桶を備へ製器機械は遺憾を期せず、廿八年着業以來幾多の改良を加へ銘酒「玉の川」を出し芳香鼻を衝き佳味舌を鳴らさしむ、故に呼聲愈々廣く營業の隆盛期して待べきものあり。

◉角ニ印酒谷釀造店(古宇郡泊村)　店主長兵衞氏天保十二年を以て加賀國河北郡七塚村字木津に產る、十五年現地に居住し、先づ漁業に心膽を碎ひたるも、後卅七年先進西宮氏の後を引受けて酒釀を副業と爲す、目今釀造に係る「桔梗」「惠美壽川」の二酒は其甘露の美味を以て取引愈々盛んに孫長一郎氏が之が擔當たり。

◉山中印藤原釀造店(古宇郡泊村)　醬油、味噌の釀造販賣を以て專業とする店主藤原作平君は備前國小島郡小串村字阿津の地に安政六年の產、生業を船大工職に習得し明治十六年新潟港に赴く、偶々同市大火に見舞たるの後たるを以て其企圖の不可なるを覺り、勸めらる儘來道岩内に居を相し、同地大島順兵衞氏に一身を托し後、好機に寄せて卅一年現地に來住現業を經營して愈々眷顧の客を握有せり。

◉丸佐印伊藤商店(古宇郡泊村)　誠實を資本とし勉强を法とし薄利を特色とする丸佐伊藤商店は信用甚だ大に顧客日に加る、店主伊之吉氏は新潟縣佐渡郡相川の生、安政五年の出產明治十九年齡十九才の弱冠にして本道に雄飛し、當先泊村に小間物を開き、自ら荷を負ふて泊、赤石の間に往行す、殷賑今や一として備はらざるなく、所謂萬屋の名稱ありと

◉曲久印深津商店(古宇郡泊村)　古宇郡内に於て商畧に長けたる奇才家を求めなば、夫れ深津ならん乎、店頭常に市を爲すも君の手腕を了すべし君名は粂藏、近江國愛知郡豐國の產、明治八年の人、卅三年泊村に來泊するに到つて米穀、荒物、海產仲買、其他雜貨の賣捌店を設く、以來營業賑盛を極め愈々盛大に赴くべしとの評判あり。



◉種田長吉君（古宇郡盃村）

山川の風光天然の形作る蝦北の地、波清らかに羊嶽の秀峰青雲に聳ゆる邊り、君が郷土は長へに存す、抑も君は天保十二年の產、渡島國上磯郡有川村字上松の漁種田德兵衞が嫡男たり、家は豊富の境を遡つて蒿蓬に際する時、其產聲を擧げたる君は幼にして逆厄の嘗慘を極む　明治元年、貨幣三十五圓の資金を以て米噌を購ひ、小戸を搆へて是を店頭に商ふ後漁に志し歲々岩宇二郡に横行する多時都度利を收めて有戸に歸る、偶々父德兵衞氏八十四才にして沒し、續て嫡母八十才を一期として黄泉に亡父を追ふ、即ち君襲世して奮躍一番、遂に全戸を提げて現村に移る、時實に明治十五年たり、而して爾來亡父の遺志を繼續漁を業とし連綿今日に到る、其間沿革を叙する者一の興味たるを失はず、君が企業の當初にありて網一統を經營し、十八年に於て之が一統を增し三十六年更に一統を加へ現下尙二統を有し之を確保せりと其隆々の跡や一起一伏を存し既往の苦慮を偲ばんか、而して君に一子あり重治氏と稱す、明治十二年の產、頗る博學篤行の士たり、現時君は病を得家督を重治氏に讓り竊に老後を養ふ、氏即ち現時重治氏家政を閱し一家静清些の風亂を見ず一族團欒一業榮へ家政大いに昇ると遮莫常に村衆の推す所總代たり水產組長たり衞生組長たり將た漁業組合長として民意を滿たし公私に盡瘁し千秋一日の如く村政の興振に勉め依然一村の重鎭として獨清望を隆うして自ら樂む、將に是れ蝦北十一州を擧げて稀有の人傑たるのみならず併て一道の光榮たり、前途尙春秋に富む君請ふ瞩望を期せよ。

◉金澤長太郎君（古宇郡與志內村漁業家）

古宇郡水產組合長金澤長太郎君、此の一事金澤氏の如何なる人士なるかを說明して餘りあるべし、由來古宇の地、交通の不便別天地を爲すと雖も、其の漁利の豊なるに於いて全道屈指の好漁地たり、去れば其の水產組合の活動目醒しき物ありて存するのみならず、古宇〆粕の海產物市場に於いて聲價を博し鰊締の良好なる遂に壽都締の聲價を凌駕したるが如き一に水產組合の荷造檢査を勵行し、其の改良を奬勵したる結果にして、金澤氏組合長としての功永く沒すべからざるなり、氏安政四年三月岩內港に生れ　二歲にして金澤家に養はる、養父金澤源之助氏は陸奥國北郡佐井村の人嘉永年間已に本道に航し、岩內領運上屋に雇はる、萬延元年岩內郡茅部村字茶津に獨立し、當村巳に建網漁業を行へりと云ふ、後ち幾干もなく、古宇郡與志內村に轉じ、依然漁業を經す、源之助氏、資性任俠、克く人事に盡し公事に勵み、明治九年全力を漁業に濺いでより、或は漁業組合頭取に擧げられ、村總代人に推され、或は水產奬勵會地方委員に選ばれ、學務委員に任せらるゝ等、公共に盡せしの功傳ふべきものありて存す、明治廿年老を告げて家を長太郎氏に讓り、廿五年病沒す、長太郎氏家を繼承してより克く岳父の志を守り、漁業經營の餘力を公共事業に盡し大に盛名を博す、水產組合一度組織せらるゝや氏多年の勢威と重望とは、推されて組合長となり、其の選任を辱めず別に盃村郵便局長を兼ねて通信交通の發達に貢獻し、古宇一流の人士として知らる、古宇此の好人士あり、豈に古宇の面目のみならんや。

◉武井総作君 (古宇興志内漁業家)

古宇郡興志内村字茂岩に於ける武井総作氏は武井家の一門にして、興志内に於ける有力なる漁業家たり、思ふに武井本家の一度は衰運に陷りながら克く家道を恢復し、其の門地を維持し得たるもの、氏等の如き有力なる別家の存するが爲めたらずんば非ず、氏の家本姓は新谷と稱す、先考總吉氏、武井家の先代忠兵衛氏に其の才幹を認められ、忠兵衛氏の長女千代子の配として武井家に入り、武井を姓とす、明治三年別家し、興志内茂岩の地に獨立漁業を經す、總吉氏賢明にして達識、巧に漁業を經し、產を爲し、家道を堅ふし明治の初年已に嚴たる武井家の基礎を築き、子孫百年の大計を爲す、英傑往々にして年齒に缺く總吉氏又然り天壽を與へず、明治九年五十歳を一期として病沒す、氏の實兄角藏氏家督を繼ぎ依然漁業を經して家道を改めず、一意先考の志を大成せしめんを期せしも、不幸にして明治十九年、廿九歳の壯齡を以てして病んで又起つ能はず、總作氏乃ち起つて武井家を繼ぎ三代として以て今日に至る、氏明治四年を以て呱々の聲を擧げ、襁褓の間父と死別したりと雖も、已に長じて倜儻先考の遺風あり家兄死沒後家を宰し、施設一も誤らず、着々經營の歩を進め、建網二統を經するの傍ら力を居村の發達に濺ぎ、公共事業に鋭意し、総代人に選ばれ、有力なる人士として居村に重せらるゝに至る氏今や巍然として成効し、其の新進の鋭氣、何人も服せざるなし、思ふに氏や尙は春秋に富む、前途の多望なる、毫も識者を要せず、興志内の地の發展進歩氏の手腕に待つ多からんなり。

◉澤口豊治郎君 (古宇郡盃村)

君天保十四年三月中日青森縣西津輕郡大間村西崎彌治郎三子に生る、嘉永元年歲六歳にして同郡深浦村字荒町工藤理門の養子となり居る事十有二年、年十七、一日花柳に身を過つて離緣を宣せられし郷天を捨てゝ秋田縣山本郡落合村村岡及藏を頼つて四十餘日を寄食に送り一日窃かに故國に到るも顧るなきに窮極る、年十八、万延元年春本道に來航、現村に到るも雇る不能、更に岩内に到り御鉾内町若狹屋福松に奉公する半年、後厚田郡オショロクチに至り漁期を待て假小屋に起居し火に逢ふて衣具を失ふ、寒暑を凌ぐに由無し、主人香松憐みて補助す、文政元年舊十一月再び岩内に來り御鉾内町齊藤熊次郎に寄る、翌年正月堀株村池田某方に漁夫する六星霜、安政二年同村鈴木清兵衛方に奉公し同九月同村澤口半四郎の養子と爲る、明治元年ロカロインの漁場に雇はれ居る事八年、同十月古宇郡盃村百四十一番地武井氏漁場に移り業を助く、同十一年歲四十一歳にして辞し同氏の漁場を借受け吉田福藏より正金八十圓を受け微々漁業に着手漁夫十八名を督し從ふも近村更に漁なし明治十八年舊四月十二日鰊魚大いに群來、即ち木村久平と連合共力三日に亘り、漁三百石を得、時に百石二百七十圓の亂廉を告げ心算相違し漁夫給料すら辨じ不得、依而岩内濱中又左エ門より粕百七十石を引當し、月四分の利を契て三百五十金を借受け僅かに小遣を與へて漁夫を立たしむ、猶二百餘圓の不足心膽を勞するの間、翌年を迎へ漁夫僅かに十四名を以て四百廿石の收獲を得、絞粕の如き二百九十五圓乃至三百八十圓の間に販賣せりと、

爾後毎年漁夫を增し同廿一年六百卅九石、廿二年二百七十六石、廿三年五百十八石、廿四年五百八十一石餘、同廿五年五百〇九石、廿六年八百九十餘石の增收を極め歳々好漁家運大いに榮ゐ今日の隆昌に到る。

◉二一山印笠原商店（古宇郡盃村）　呉服太物、米穀荒物、雜貨を商ふ家にして古宇郡內に卓越する者笠原福太郎氏商店也、君新潟縣新潟港に生れ廿二年來岩、廿四年斯業を現地に開く、君は傍ら盃村郵便局長金澤長太郎氏の代理として自宅に該局を設置せられてより精勵局務を整理し民意を滿たし嘗て所務を誤まりし事なく十六年の長年月一日の倦まずと以て人材視ふべし。

◉丸文印岡田商店（古宇郡興志內）　營業は熱心にして誠實を旨とし薄利を特色として顧客の勉益を期企す　故に日用品の需用は當店に達せざるなし、店主岡田文治郎君近江國犬上郡彥根の產、世に言ふ江州商人にして明治元年の人、廿年巴港に渡り、太物商に勤むる事五年、後之れを行商し、續て廿七年現地に卜居し太物、小間物、官煙、銘茶、金物、石油米穀、荒物を專物とし傍ら海產仲買、肝油の製造を爲す、尙近來海に網を投じ漁業をも營むと、一業の經營尙難き世に君は數業を經營して發展益々見るべきものありと其手腕や驚くべし。

◉山や印坂井商店（古宇郡興志內）　米穀荒物雜貨を以て商業を經營する坂井商店は坂井周平君の營業に因る君新潟縣中蒲原郡白根字能登に生れ安政三年の誕生、明治十九年來道、先づ巴港に上陸し、續て現地に現業を營む、急四方に名聲を馳らせ地方屈指の位置を占め後學務委員に選ばれ、村總代に推され、三十一年衞生組長、水產組合委員に戴かれて令名夙に高し、偶々三十年海に網して漁業を起して今尙副業として經營する者ありと後來待つべし。

◉曲五印高井德太郎君（古宇郡興志內）　君は博識にして德望を謠る、業は酒類釀造を以てし歳々多額の造石を爲し大いに販路を擴張しつゝあり、釀造に係る清酒「塩越川」は芳匂香蒸鼻を撲ち舌を鳴らさしむ、好評嘖々遠近よりの注文絕ゆるなしと、而して君は石川縣能登國珠州郡鵜飼村に弘化四年を以て生る、明治九年の頃本道に來航、超へて十三年以來連綿として斯業に在り、其家政愈々豊かに赴くに及んで更に副業として水產業に從ふと、業務日に廣く他人の羨望する所偏に君が才智にあり。

◉曲方印四方商店（古宇郡興志內）　當商店は近海漁場に關係尠からず、常に精良の海產物を販賣して嶄然嘖名を知らる、店主四方勝太郎君文久三年の生、能登國珠州郡春日野村に產す、明治十九年渡道岩內に上陸、海產商に從ふ事十年、蓋し君は世々酒釀業の家に生れ尤も斯道に卓識を有す、故に地方に於て君は是が指敎するあり、卅年現地に移住し海產商を營み傍ら漁業にあり今や兩業逐年其步を進め、地方斯界の泰斗たるもの其成達や期して俟つべし。

◉澤口庄助君（古宇郡神恵内村漁業家）

岩内古宇二郡の地に、第一流の漁業家を求む澤口家は其の優なるものなり、然り澤口家は岩宇二郡地に於ける舊家にして又豪族なり家祖澤口庄助氏は陸中鹿角郡毛馬内村の人、天保二年二月古宇領神恵内の地に航し受負人田付家に仕へて傭夫たる十餘年、此の間身親しく漁撈に從事し、海底の淺深海藻の厚薄潮流の緩急盡く之を調査し、同村字フエタウシの好漁地なるを看破し、天保十二年始めて漁場を開き茅屋を建て、獨立漁業に從事す、當時庄助氏や是れ渺たる一漁夫、幾年の辛酸勞苦次第に資を貯へ、益々漁業を擴張し、安政六年始めて建網を建つるを得たり、是れより漁利多年家政年と共に豊に、明治以前已に儼たる家を爲し産を興して其の名を知らる、庄助氏嗣子なし、早くより妻の甥初太郎氏を養ひ嗣子と爲す初太郎氏又英邁養父に劣らず、鰊漁期年々暴風襲來し、爲に漁獲物を放棄し損害を蒙る多きを慨し切洄なる物を創意し、元治元年始めて切洄を開く、是れ本道漁業界に於ける切洄の嚆矢にして後人の之を習ふて得たる利益の太なる、初太郎氏は眞に我が漁業史に特筆大書すべき人たるかな、而かも惜むべし、明治六年四月病で歿し、庄助氏又同年六月白玉樓中に眠る、現代庄助氏は陸奥下北郡佐井村の人文久元年古宇の地に航して初太郎氏の女婿となり明治六年澤口家を繼き名を庄助と改む氏又英邁克く守成の難きに成効し澤口家をして岩宇二郡地一流の豪家たらしめん家祖の靈を慰め、二郡地に於ける大漁業家たるの實を完ふせり、英傑、英傑の跡を繼く三代澤口家の名聲故ありと云ふべし。

◉佐野川幸吉君（古宇神恵内漁業家）

佐野川家は古宇郡に於ける屈指の漁業家なり建場を有する十二ヶ統の多きに達し巨然として一家を爲す、幸吉氏の先代弘治氏は陸奥八戸の人、廿二歳本道に航してより、志望空しく嗟跎宿志遂せられずして、各地を放浪する數星霜一日慨然として思へらく、吾れ郷關を出てゝより已に數星霜齡又卅に垂として一事を爲すなく一資を得るなく、徒に放浪の客たるは男子の恥辱と爲す處と心竊々樂ます偶々人の古宇郡の漁利を説くものあり、氏意を決し古宇郡に赴く時に元治元年たり、自來氏漁期は漁夫となつて神恵内村に漁撈に從ひ、他は雜貨菓子類を行商し、粒々の辛酸備に難苦を嘗め萬難を排して精勵し、漸やくにして赤石村に家を建て漁業に從事し得るの機運を開けり、自來漁撈閑なるの時は商業に從事し、漁商兩つ乍ら兼ね營んで殆んと寢食を忘るゝに至る天何んぞ此の精勵の人を捨てんや明治六年に到り、始めて多年の志を達し、建網を經するに至れり、自來年々の漁利多く、甚だしきの不漁に見舞れたるなく、年々資産を增殖し、遂に資産家として郡内屈指の佐野川家を爲せり、廿年神恵内村に商店を開き、又岩内滊船會社設立發起人と爲つて汽船會社を起し大に郡民の便を開けり、氏嗣子なし早くより澤口庄助氏の甥幸吉氏を養ふて嗣子と爲す現代幸吉氏是れなり、幸吉氏勇邁此の如き先代を仰き其の業を繼承してより、依然として元代の志を改めず、漁場十二ヶ統の内三統を直營し他を貸與し孜々として力を公共事業に盡し、佐野川家の名聲をして隆今日あるを來さしめたり偉なりと云ふべきなり。

◉高橋勇助君 （古宇神惠内漁業家）

高橋勇助君、是れ苦心の成効家なり、赤裸々の身を挺し草鞋を鬻くの境遇より起つて今日を來したる人、氏豈に尋常の男ならんや其意志の强健、其の氣力の猛、當代得易からざるなり、高橋氏天保六年四月八日を以て、陸中國岩手郡松尾村字長崎に生る、幼より商業に志し、爲すあらんを期す、安政六年年齒僅に十八歳を以てして本道に航し、上磯郡有川村の種田家に仕ふ、精勵六ヶ年に亘りしも志を伸ふるに由なし乃ち慨然身を漁夫の群に投し慶應元年古宇郡に赴き、漁夫として勞働し辛酸數年、漸やくにして店を神惠内村に卜し獨立するを得たるも、固より資金あるに非ず他の援助を待つは其の志に非ず、漁撈の傍ら草鞋を作りこれを鬻く年分の利潤僅に數金に過ぎず、氏の堅忍なる斯る境遇辛勞に屈せず一意專心精勵以て事に當り、勤儉以て其の身を處す、千里も一歩よりす氏多年の辛勞空しからずして明治十年、遂に建網を建つるの盛運を來せり、自來家運年々に開け、海産商を兼ぬるに至つて、利潤又尠なからず、遂に巨然たる一家を爲し其の名を知らるゝに至れり氏の經營の才に富む、吳服店を開いて神惠内村吳服店の開祖として知らるゝに徵し得べし氏已に名を爲すや、總代人に選ばれ、漁業組合頭取に推され、水産物營業人組合納稅委員を命せられ、又徵兵參事員を命せらるゝ等尤も公共に盡し、其の功勞少なからず、氏今や閑居老を養ひ兒孫堂に滿ち、和氣洋々羨むべきの家庭を爲して悠々たり吾人は後進子弟の成効せんとする如何せば可なるの途を氏に學ぶ多きを信ずるものなり。

◉小倉源次郎君 （古宇赤石村漁業家）

古宇神惠内の地に有爲の人材を糺す、何人も先づ指を赤石村の小倉源次郎氏に屈せざるなし、宜なる哉、卅二年の年已に漁業組合副頭取に推され、自治制施行せらるゝや、直に村會議員に選ばるゝの聲名あるや、思ふに小倉氏は果斷敢行の人なり、斷ずる何物の難をも排せざれば休まざる慨あるの士なり、企つる目的を達せざれば乃ち休まざるの意氣あるの士なり、人間の尊ぶ處意氣にあり、人間の重する處敢爲の勇にあり、小倉氏の古宇の地に聲名を馳する偶然たらざるなり、看よ小倉氏や明治廿一年建網漁業家として赤石村に去嘯してより、忽ちにして村總代人に擧げられ、學務委員を命せられ、漁業組合副頭取に選ばれ公職に盡す十有餘年、些の失態なく、村民の信賴益々厚く、彼の地形上、習俗、慣習を異にするが爲めに古宇の地水産組合を設立する能はず、多年の難問題として知られ、解決容易ならざるや、氏は其の創立發起人に推され其の解決を速かならしめたるが如き、氏の人格の一般を知るべきなり、氏慶應二年一月十五日を以て生れ、幼にして穎悟、長して漁業に從事し、其の閲歴何の奇なきが如しと雖も、是れ氏の畫策に遺算なきの結果にして何等迂餘曲折を爲さずして成効したりしなり其の殊に氏が凶漁に對する漁業家の策として副業を奬勵し、漁村維持の方法を案出しつゝあるを聞き吾人眞に氏の烱眼達識なるに服せずんば非ず、本道鰊漁業の衰退は挽回すべからざる事に屬す、漁業家の要、唯た適宜の副業を選んで其の策を講ずるにあるのみ、小倉氏眞に有爲の材なるかな。

◉佐々木末治君（古宇郡珊內漁業家）

佐々木末治君は古宇郡神惠內村字珊內に於ける知名の漁業家なり、氏秋田の人、嘉永六年十月秋田縣由利郡壜越村に生る、先考は勇吉氏家代々農を營み氏其の第三子たり、年僅に十四歳、知人に伴はれて本道に航し古宇郡漁場受負人田付新十郎の家に仕ふ、時に慶應三年たり、斯くして氏の田付家に仕へ、精勵する前後九ヶ年、此の間貯ふる處の資金を以て同郡赤石村に居をトし、鰊刺網漁業に從事す佐々木氏人となり資性堅忍困憊難苦に屈せず勤儉意に体し、渺たる刺網を營んで徐ろに時來の發展を期す、明治十年居を現住所たるの珊內に移し、精勵依然たり、十四年漁場を購入し建網を建つるの盛運を贏ち得てより、年々成効の步を進め、廿年更に一網を增加し佐々木家の基礎全く成れり、自來氏經營の巧と天與の豐漁とは、遂に氏をして資產を以て知らるゝの今日を來せり、氏又力を公共事業に盡し、居村の發達を念とす、明治十八年水產物營業人取締役に選ばれてより、同村總代人水產物收稅委員等に選ばれ、自治制の施行せらるゝや、推されて村會議員に擧げられ、現に其の職にあり、其他郡役所、警察署、學校等の新築に資を寄附し、木杯褒狀を受くる事前後十餘回に達し、益々力を公共事業に盡しつゝありと云ふ、吾人は氏の農家の出身を以てして危險なる漁業界に成効し、資產を以て知らるゝに至りたる大なる成効に服するものなり、年僅に十四歳にして、本道渡航を怖れざりしの意氣驅て今日の成効を來したる因たるに相違なしと雖も、抑も又氏の堅忍なくんば焉ぞ今日あるを得んや偉なる哉。

◉八印橋村茂八君（古宇郡神惠內）　君は漁業家中の有力家にして遠識の聞へあり且つ同情の義に厚きを以て公共に盡瘁し衆庶德望厚し然して生國は秋田縣仙北郡大曲町、万延元年の產、廿二年本道の地を踏んで以來、克く成功今日の榮を致したるもの誠に稀有の篤志家にして不屈不撓の精神を有するに因る、今や建網二統を海にし、傍海產業を營むとなり。

◉入〆印池田ハツ子君（古宇郡神惠村）　一巾國の身を以て三十有星霜連綿として本道漁界の先進を以て堂々たるもの池田ハツ子君あるに於ては男子將に慚死せざる可からず、君は秋田縣山利郡象潟村に生る、明治十年頃本道に渡り商に從ふもの多年、後卅二年建網二統を以て漁業を經營し、今日の繁盛を致したり今や現地の外、柵內にありても斯業を爲すと。

◉北一印北井長作君（古宇郡神惠內）　識博く理に明なるの君は地方に尤も信用を有す、加賀國浦北郡七塚村は君の鄉里、明治三年を以て產る、廿二年渡道小樽に留り一丸壽原氏商店に店員たる事少許、後古平支店壽原要太郎氏等に寄りて肝油の精法に就て究むる所あり廿五年同地に移住するに及んで始めて獨立、肝油沃度の製造を起す、而して傍ら回漕業を營みあり、主任佐藤氏に一切を托任し卅八年の開業に係る。

◉山ト印近江屋呉服店（古宇郡神惠內）　改良進步の道を硏究し銳意顧客の利便を圖るを以て自店の方針と爲す店主稻葉光次郎君、近江國愛知郡豐國村畑ヶ田の產、明治九年の誕生たり、幼に大阪の某木綿商に勤め廿一才にして出京、後現地に屢々行商するに及んでト居、

卅六年來獨立して開業、今や信用盛大、他店の企及すべからざるの隆々にあつて存す。

●丸久印畠山商店（古宇郡神惠内） 經營の主、畠山三次郎君は地方斯業界に錚々たるの人也秋田縣由利郡愛川村字黑澤に産れ、少壯志を商に企て、一度北海の新天地に雄飛の基を開かんと明治十九年九月渡道、直ちに地を神惠内に相し先づ鍛冶職たる事一年、深く新進の智を研き廿一年一商店を獨立經營して斯業を續け、後卅一年金物業を開始して商ふに和洋銅鐵、岩糸ロープを以てし傍ら農漁船具の製造に從ふ、其巧妙を以て隆々名聲を博す。

●入久星印小倉呉服店（古宇郡神惠内） 店主兵助君は漁業家小倉源次郎氏の養子となるに及んで現地に呉服商を經營したるの人、四十年十月の開業未だ日淺きも奇才ありて商機に富む、主人常に商略を畫きて自家の繁盛を企圖し、好んで信用の擴博に盡瘁す其隆々期待すべし。

●曲ヨ印高田商店（古宇郡神惠内） 廉價勉強は高田商店の特色にして顧客の評判最も宜し、店主高田與惣次郎君は江州愛知郡豐國村の産、明治十四年の出生、父長七の木材商を本道に企つるに從て渡道し、卅七年來大崎商店に勤務する事四年、四十年末月現地に米穀荒物雜貨海産商を開店す、爾來鋭意營業に忠實忘るなく精勵怠らざるを以て今や顧客絕一すと云ふ。

●一山カ印信照堂（古宇郡神惠内） 信照堂は藥種商を以て古宇唯一の名あり副業に玩具小間物を商ひ流行新形を趁ひ流行に遲れざらむを努む購客は正廉確實なるを信用して店頭に

市を爲す、店主を乾野増太郎君と云ひ近江國愛知郡稻村の人、慶應元年に生る、廿五年上京して企圖する事ありたるも其意を得ず遂に本道に航し卅年來現地にあり、當初敎育圖書の行商を爲し後現業に移り信用を博す。

●丸三印齋藤商店（磯谷郡昆布驛） 足一度昆布驛を踏む者は先づ商店丸三印の存在を見ん、店頭敢て人目を惹くの装飾を施さゝるも米穀荒物和洋酒類より罐詰、藥種、呉服太物、瀬戸物下駄、小間物、筆墨に至る迄一として備らざるなく其基礎の鞏固と商品に豐富なる事敢て他店の企及すべからざるの特色を以て獨卓越するもの齋藤商店也、店主齋藤秀三郎君資性謹儼にして克く店員を心服せしむるの慨あり、明治二年は君の仙臺に呱々の産聲を擧けたるの時、十一年本道に初來し幌別郡幌別に留り、田園の耕耨に從ひ、後請負業に指を染め、超へて卅七年勸むる人あり現地に山林を求めし者、其動機と成つて永住の策を立て全戸を携へて來住す、後計畫圖に當り隆と盛とを一手に握有して名聲を博し、今日の地位を占む、夫れ所謂精勵は商士の德とも言へる者乎幾多の同業者學んで可也。

●曲サ印澤田出張店（磯谷郡昆布驛） 店主堀田佐七君は非凡の奇才を以て商事に精し、生國は明治十三年富山縣高岡に生る、世々商家に長じ故國を蹴て本道實業界に雄飛せんとの志を抱いて三十九年郷關を出づ、本道の人となるや當初の志を一貫せんとし一日も倦まず其發展の盛大を極め營業日に昇り地方實業界の雄鎭として勢力を伸す、然して君が室は樽港の紳商澤田儀三郎氏の令妹なりき、非凡の君にして此室あり將來の隆昌見るべきのみ、

商品種目は米穀荒物雜貨、吳服太物を以てし傍ら運送業を經營し其迅速を知らる。

◉丸福印福田運送店（磯谷郡昆布驛） 營業は確實たり貨物取扱は迅速にして親切を極むるもの是れ這店の特色也、店主福田佐次郎君は昆布運送界に鏘名を知られたるの人、自來君が經營の才に富めると敏速の手腕は愈々磨かる、今君が經歷を聞くに斯業に手を染めたるの時は卅七年にして上川倉庫を經營し超へて卅九年現業を致す、蓋し不屈堅忍の人にあらずんば豈に克く今日の成功あらんや、欽すべき哉。

◉日野醫院（磯谷郡昆布驛） 日野醫院は昆布地方醫界に於ける重鎮として目さる、院主日野鶴之助君夙に斯道の蘊奥を極め、其術に熟錬せるに至つては地方稀に見る所、高風自ら人を畏敬せしむ、然して君は嘉永五年の產、石川縣能登の僻村に產る、家は醫を以て渡世し、君また業を繼ぐに及んで遠く本道に志し、函館に在り開業、薄命を憐み孤獨を慰めて自ら樂しむ、後招れて壽都郡政泊に村醫たり、更に四十年北尻別村に赴き、翌年七月現地に移りて一院を開く、今遠隔の地より來りて診を請ふものの日に倍し續々踵を接するもの一に君が仁術の所以を解する其德望高きにあつて存す。

◉丸山印第三支店（磯谷郡昆布驛） 店主小林久作君は新潟縣三島郡脇野町の產、十二年春の誕生、家は農を以て生業とするも、君長ずるに及んで頗る壯志を抱き卅四年本道の人となる經營する所は農具打刄物、建築金具、鍋釜鐵瓶の類を商ふにあり、殊に其特意とするものは鋸目立の巧妙を鳴す、三十八年七月丸山印を商號とする第三支店を營むに及んで鏘々

たる名價旭日と共に昇り繁盛日に加ふるものありと傳ふ。

◉曲元印成田温泉（磯谷郡昆布驛字湯散別村） 舊北鐵線昆布驛を離る北方三十町、山間の地に源泉を有し病を靜養する風流の客四季斷ゆるなき以て諸病の保養地として尤も適するを窺ふべし、居は山後を擁し潺潺たる白水前を澆る、以て風光掬すべし、嘗て逸見醫學士本泉を以て其卓効を奏すべき病種を擧げて曰く慢性多關節僂痲質斯、筋僂痲質斯、腺病、貧血、消化不良、慢性胃及腸加答兒、慢性氣管支加答兒、陳舊性胸膜炎、肝臟及脾臟病、慢性子宮病及卵巢炎、梅毒以て効驗や證すべし主人成田元吉氏性資溫厚着實にして高潔の美風を有し專念を傾けて行客の至便を計る、而して宿るに賄付あり、自炊あり、客室樓の上下を通じて十二室を算し、浴槽また廣濶にして優に數十人の浴客を收むべしと如何に至便かを知るに足るべく殊に秋候、杖を玆地に惹かんか滿山の楓樹悉く霜に飽きて颯々たるもの又一段の興を添ふ以て快至らざるなし敢て聞く館主成田氏は玆地草莽蝦夷地たりし時代より居を相し今日の啓發に導きしものなりと其功勞や擧げて賞讃すべき也。

◉丸あ印畔津幾藏君（磯谷郡蘭越驛） 君は剛毅の氣性に富みて土地に於て一頭角を拔くの人也常に荒物雜貨を店頭に捌いて地衆の供給に勉め吳服太物米穀を供へて衣食住の不便を顧客に與へざらんを努むる所、其店名嘖然たる所以なり、而して君は佐渡の產、明治四年農家に生れしも、廿三才にして本道に渡り歌棄郡有戶に留る、後卅年磯谷郡大谷地に移り居る事七年現地に赴き其業を營むに及んで其德望を歌はれ今や蘭越郵便局長の椅子を占た

り、其職に臨むや他を顧ず、其商に從ふや一意顧客の便益を企圖す、氏にして今日の余榮あり家族團欒の德に浴し家政の隆昌を見る、蓋し偶然にあらざる也。

◉曲セ印勝間商店（磯谷郡蘭越村） 誠實精勵薄利を旨として顧客の便益を圖るは勝間商店也、常に信用甚大にして店頭見る者をして轉た羨望の念を起さしむるも勝間淸五郎氏が地方の商界を風靡し經營の巧妙に基く、嘉永四年六月近江愛知郡吉田村に產す、明治六年磯谷村に渡來し商業に從ひ、三十九年冬蘭越村に居を占むるに到つて藥種、雜貨、味噌を販賣し傍ら糀の製造に從ふとなり。

◉曲十印坪田吳服店（磯谷郡蘭越村） 當地方隨一の商店にして勉强の親玉を以て任じ營業繁昌を極めつゝある商店は商號を曲十と云ふ、坪田貫靜君の有にして吳服太物を商ひ金物雜貨をも捌く、坪田君は近江の人、明治九年の產に屬し、其本道に渡りしは廿八年、巴港塚本吳服店に斯業を究め、四十年八月獨立して現業に從事す、近く盛んに企畫しつゝありと言へば日ならずして盛大に赴くべしとの評判あり。

◉丸通印龜山運送店（磯谷郡蘭越村） 岩手縣盛岡の人龜山見道氏の經營にして、其取扱貨物の確實迅速を知らるゝ所、地方唯一の好運送店たるを失はず、而して內國通運北都組、北海道運送の取次店たり。

◉丸通印龜山旅館（磯谷郡蘭越驛） 當地方唯一の旅館を以て行客踵を接する龜山旅館は構造の堅きと開業の古きを以て知らる、龜山見造君の營む所にして三十二年の開業と聞く。

◉平田敬信君（南尻別目名農場農役長）

南後志の地、土地豐穰、地味肥沃、農耕の業熾んに、稼穡の道大に開け、幾多の大農場に富み、知名の農場尠なからずと雖も、其の摸範農場を求めて、遂に目名農場に及ぶものなし、蓋し目名農場の嶄然として其の名を知られ本道に於ける摸範農場として嘖々たるもの一に同農場農役長平田敬信氏の管理施設其の宜しきを得たる結果にして、平田氏なかりせば、目名農場又普通一般の農場たらんや必せり平田氏の本道農業界に與へたるの功も又偉大なるかな、寔に農場の管理施設、如何にせば摸範農場たり得るかを氏に依りて敎へられたればなり、平田氏丹後宮津の人、安政三年八月八日を以て生る、先考は保右衛門氏、家代々士林に列し、宮津藩士たり、先考元締奉行の任にありて頗ぶる令名ありしと云ふ、平田氏少壯大坂開成所に學で螢雪の苦を積み明治六年小室信介氏等と天橋義塾を開き、育英の職を執る、後ち中嶋信行氏等と熾んに民權の自由を叫び、政黨樹立の必要を論じ、大に力を立憲政体の創設に盡し、國士を以て任じ東西に奔走せしも、何事か深く時事に感ずる處ありて飜然志を改め、明治十七年京都府に出仕し、廿三年大坂盛業社の技師と成り、廿八年日本刺子會社を興し、之れが主宰者たり當時神鞭知常、田代四郎、寺師宗德、河瀨秀治の諸名士、本道南後志磯谷郡南尻別目名原野に三百餘万坪の大地積を得、目名農場と稱し開拓を經營せしも、管理者其の人を得ず地積徒に大に、數年の投資水泡に歸し、將に返地命令を受けんとするの窮厄に際す、四士深く之を憂慮し、頻りに好管理者を物色し、農

場を既斃に支へんとし、神鞭氏の力を以て遂に平田氏を物色し得たり、平田氏是等四士の苦心に同情し、其囑托を空ふせざらんを期し卅三年之れが管理者たるを諾し、目名農場に入る、氏一度農場管理の衝に當るや、直に經營の大方針を立て、夙夜統治開發の大任を忘れず、小作人等を鼓舞激勵し、身卒先精勵の實を示し、經營慘憺九星霜、明治四十年豫定の全部を成墾し茲に理想的農場は成効し、理想の市街は顯出されたり、目名市街地住民大に平田氏の功勞を多とし其の頌功碑を建設し以て其の功を不朽に傳ふ、時に明治四十一年五月廿八日たり、其除幕式の如き來會者數百名盛太を極めたりと云ふ、當時農場組合長河瀬秀治氏左の感謝狀に金六千圓金盃一個を添へ其の勞に酬ゆ。

北海道開拓の事業たる固より國家の急務たり是を以て斯業の經營を爲すもの亦尠しとせず然れども其成効を見る殆ど罕なり惟に斯業の至難なる常人の克し能はざる者あればなり然り而して貴下の本業に從事せらるゝや日夜勵精事々忠實計畫其宜きに適し恩威兩つ作ら施し克く衆を撫御し全部開墾に至らしめ今日の大成を致す實に是れ偉大の功勳にして豈に單に組合員等の幸福に止らず洵に國家の慶事たり茲に組合員の決議に依り其功績を表彰せんが爲め左の金品を贈進し併せて感謝の微意を表す冀くば今後益健剛を保持し斯業の爲めに盡瘁せられんを。

一金盃　一個　一金六千圓也　一昆布郵便局建物附屬品一切

本道の地幾多の農場あり幾多の管理者ありと雖も、平田氏の如き表彰を受けたるは稀有なり氏の功勞も又偉大なるかな。

◉高山豊機君（南尻別村字目名）　這地村落を通じて名國手を撰まば先、一に君なるべき乎、夙に醫學の蘊奥を究め明治十七年頭角を現す、卿は石川縣羽咋郡堀松村字未吉に在り、文久三年の產、醫を業とする者君にして四代、而も嚴父は八十有五の高齡に達して尙在世、十九年現村に在移、其間村民謚す所多く嘗て八百四十八人の村民に無料種痘を施したるの功を以て木杯を賜る、後磯谷警察醫たりし事多時、今現業に在り。

◉辻農場（南尻別村目名村）　經營を掌る人は辻元吉君也、君は剛毅の氣に富み頗る快活にして不屈不撓は其生命なり、今其人爲を聽くに文久三年七月廿三日早晨を以て近江國神崎郡旭村の田園に產聲を擧ぐ、長ずるに及んで益々其所期を堅くし廿三年齡廿八歲にして本道に航す、當初歌棄に留り、竊かに蟄居して吳服業に身を托ぬ、超へて廿五年甚冬、現所に永住の居を卜したるの時は、羆熊の棲穴其累を爲し茅舍点々を指目する一荒村にして、一の商家を認めず、君即ち大いに慨し、先づ商舖を開き太物雜貨を商ふ、されば此地君は商士の嚆矢にして見る〳〵隆々其基礎を固うし擴張立ち所に成る、乃ち廿九年六月新たに旅館を開き巨萬の財を積むに及んで斷然兩業を廢棄し來道の初志農場を開く、之れ即ち今の辻農場にして廣漠たる七十有六万余坪の地域を占む、風土よく栽養に適し、生產收むる所優に各般の需求を充す、元吉氏常に汲々として小作人を督勵し倦むを知らず、自ら之か栽養奬勵委員となつて椎茸の培殖に努め、更に桑園に耕して衆庶を勵す、部下亦齊しく君が高

風に畏敬し恭つて背かす、協々一致共勤むる所を致しつゝあるも將に是れ同地方開化の魁にして進運啓發の緒たり、其隆々たるもの同地方の爲め嘉すべき事たるのみならず吾人は深く其將來に嘱目して成功を禱る所也、聞却說、近時君養蚕に心を傾け、十數の男女工を募つて製糸、機業に熱中し大いに殖産共業の道に盡すものありと、噫、曩には總代たり學務委員たり身を抛つて公擧に盡瘁し今や隱て國土の進運啓發に企圖す、誠に本道に得難きの人材と謂ひつべき也。

◉丸木印木村才一郎君（南尻別字目名） 氏は當地方知名の有志家にして賢志に富み公事に卒先して盡瘁する所尠からず大に地方の敬信を博す、宜なり其嘗て推されて總代たりし事二ヶ年學務委員の名亦君の既往を飾る、其卿を尋ぬるに新潟刈羽郡北條村、誕生は慶應元年也農は君の生業たりしも、後商に志し今や米穀荒物呉服太物雜貨の類を營む、店頭は常に來求の客雜踏を極め競ふて商品を購ふとなり。

◉丸井印笠井商店（南尻別村字目名） 販賣の物品は良を以て名を博し衆諸同店に購ふを快とするは卅四年十二月の開業以來、主人定次君の商器に巧なれば也、君勉强を抱いて守本尊として周意周到殖産に勉む、米穀荒物、呉服太物は君の生業にして農産賣買をも爲す、而して佐渡の產、十二年生る、廿五年來道の初は茅部郡森村に在り、卅四年十二月現地に移る、而して今日の隆昌や正直と勤勉の德、偉なるを想はざるべからざる也。

◉曲印澤田出張店（目名停車場前） 營業品目に曰く米穀荒物、呉服太物、雜貨、兼ぬるに澱粉製造販賣、回送業を以てす、而も地玆商店の嚆矢にして實に三十七年十月の開業に屬す店主小林藤作氏福嶋縣石川郡石川町字和久の產、慶應二年の人にして卅六年始めて歌棄に道、後黒松内に移業菓子製造に執る一年の後熱郛村ツイドロに於て荒物雜貨商を爲し現村に移りて尙斯業を繼續す、尙近來製選に着業せる澱粉業又旺盛を極むと偉なる哉。

◉青木榮作商店（磯谷郡目名驛） 氏は溫厚にして着實の風に富み勤儉にして業に熱し、常に有數實業家の上位を占むるもの經營巧みに黽勉勵精たるに基く、檜山郡江差は君の鄉里、商に志して二十有余年の星霜、壽都に在り手腕を磨く後現業を此地に開くや忽ち幾府の隆を來し其支店を昆布に設く商は米穀荒物に各類を加ふ。

◉青木榮作支店（磯谷郡昆布驛） 青木氏が幾歲苦心經營の賜物として四十年八月支店として着業せられしもの本店は目名に存す、今や盛に昌を加へ、幾多同業揆範を後進に垂れんとす。

◉角吉印增井商店（磯谷郡目名驛） 專業は米穀荒物呉服太物雜貨にあり、卅七年開業以來日淺きも今や營業盛にして同地方實業家の雄鎭を以て推さるゝの店主增井吉五郎氏は下總國結城の人、資性溫厚にして着實の風に富み業務に精勵し世上の信任篤し、專業の傍ら經營する所の旅館は其待遇の懇寧を以て行客の旅塵を拂ふ以て地方に卓絕し日々來泊するもの絕ゆる事なしと傳ふ。

◉川ョ印村田旅館（目名停車場前） 目名停車場前に構送を構ふ、其便益は盡すべし、店主村

田氏懇厚專心旅客の取扱に注意す、以て行旅を慰すべし、營業の傍ら内國運送會社出張所の業務を開始し荷貨物運送の迅速を期す行旅の荷物は先づ迅速なるべし斯くして川ヨ旅館其商名を馳するもの店主の手腕常ならざるを思はん也。

●丸コ印村山支店（壽都郡熱郛村）　本店は小樽區稲穂町に存す、商ふ者は農産、荒物、米穀を以てし、其支店として置かれたるは近く四十一年二月、當初來主任平野茂君經營の衝に當り溫容頗る愛嬌を以てし、商榮の縣平たる一に君が手腕にあり。

●山大印大野定藏君（壽都郡熱郛驛）　君は青森縣八戸町に於て万延元年を以て産る、奇才に富みよく機先を制するの人、明治五年樽港に渡り、後福山、壽都、黒松内に於て商に従ふ事歳あり所謂取引上の深呼吸を解し、卅七年此地に移り農産賣買、荒物雜貨の商旗を翻し店頭旗下に群る者愈々多く、資倍し財積嵩す、後更に旅人宿を開き、今尚專業の傍ら大いに其擴張を計りつヽありと。

●井上德之助君（黒松内村請負業）

君は安政二年岡山縣吉備郡岡田村の豪農の家に産る、人と爲るに及んで空しく山間僻地に老ゆるを欲せず、先ず前途を卜して請負師たらんとし窃かに大志を抱いて郷土を蹴る、而して各地に放浪する者幾星霜、此間大いに君が手腕は磨かれ、烱眼衆輩の機先を制す、以て嘖名を隆く、遮莫時の日鐵其延線工事を請負しむる者先君を以てす、君何か雀躍せんや茲に他年の蘊奥を傾け苦慮精巧を極むる者將に六年、功大いに爲る、偶々本道の地北鐵線沿長百五十有余哩起工の報耳に到るや即ち本道に雄飛す、實に卅六年の候、而して敏腕忽ち顯れ衆驚嘆す、敢て聞く君が性資頗る溫厚、克く部下を憐む、即ち部下心服して君を師事し千業一瞬に終ると宜なる哉、今日君か名聲千里に馳せ同業首を並へて渇仰するの一事や、因に君は鐵道請負を以て曉通專事とし他余は擧げて部下に任ホと以て一班を了すべき也。

●曲サ印澤田商店（黒松内停車場前）　店主澤田利吉氏は地方實業界錚々たるの一人、少壯にして鋭心衆庶に卓越して奇才を兼備せるの人、誠に是れ稀有の人材たり、米穀荒物呉服太物雜貨は氏の營業にして銘酒千歳を取次いて飲党に愛せらる、越中は君の生國、明治十二年の産、廿二年來道、壽都を經て小樽に到り南島商行に勤務し、後三十五年樽港に獨立營業を創始し後現村に來移鋭意營業に忠實たる事定論の存する所たり。

●曲サ印澤田運送部（黒松内停車場前）　鐵道貨物運送を業とする者黒松内の地亦尠しとせず然れども取扱の正確、接續の敏速を以て嶄然凡輩の企て及はざる者、蓋し業務主任汲川竹次郎の精勵に在り、而して其基を置きたるは四十年五月、現下其取引を營む者、三立社和田組、栗山組、北都組、西谷組、丸大、北海運輸、丸北、日本組の九を算す。

●山北支店小泉商店（壽都郡黒松内）　店主小泉善太郎君地方に於ける名望高き實業家とし夙に知らる、其營業は米穀荒物にして各地に其取引を有し營業また盛んに有數の商店に屬す、開業は三十五年誠實の譽高く、先進の明鑑に富む故に良商店の名到る所高し。

●曲タ印土田旅館（黒松内停車場）　店主多三郎君は温厚の人、斯業に從ふ事數年、大いに旅客の取扱に考慮する所あり、改良大によろしきを得て來客日に多しといへば發展見るべきものあらんなり。

●曲大印千葉旅館（壽都郡黒松内）　店主千葉新藏君は義侠家を以て其地方に知らる、旅客を扱ふに最も懇切丁寧、貧なる者は救つて施し而して毫も誇色なし、其曩には歌棄郡潮路村に於て這業に經驗を重ねし人、三十八年舊北鐵線の開通と共に此地に驛を置くや來黒、再び旅店營業の錦旗を飜して以て隆々今日に到る。

●丸小印小間旅館（黒松内驛前）　敢て構造の壯を以て衒らはざる其懇切と丁寧は人の知る所、店主菊太郎專心万障を排して經營に腐心し本年一月の開業日淺きも諸般の設備完きを得て繁昌の將來想像するに難からず。

●丸十印及川旅館（黒松内停車場前）　旅館の良否は文明の測器たり、見て以て土地の交通を測る此点に於て丸十は黒松内第一の宏壯の構へ、明治十年來連綿として這業を繼續す、位置は停車場前四通八達の好適地に占め大いに旅客を喜ばしむるも營利を後にする故也、店主及川雄七君、舊伊達藩にして德望を以て名博し。

●佐藤榮右衛門君（壽都郡岩内選出道會議員）

歌棄の地有戸の濱、風光明媚なる處、一豪族の去嘯するあり、姓は佐藤、名は榮右衛門、盛名壽都支廳管内を掩ひ、走童樵夫と雖も其名を知らざるなし、蓋し佐藤家は歌棄磯谷二郡に於ける歴代の豪族にして、松前藩政當時より巨然として高く富豪を以て知られ、連綿として今日に及べるものにして、其の聲名の赫々たる由來偶然にあらざるなり、現代榮右衛門氏識見高く、學殖豊に、豪族たるの素質を有するのみならず、其の聲名は、推されて壽都支廳管内の道會議員に選ばれ、選擧民の信頼篤く、道會議場一方の重鎮を以て知らるるのみならず、時人皆な稱して、函館郡部未來の好代議士と爲す、君の聲名想ふべきなり氏文久二年七月を以て函館區會所町に生る先考を重三郎氏と稱し、氏は其の嫡男たり、幼時故あつて佐藤伊三右衛門氏に養はれ、同家を繼ぐ、今の佐藤家是れなり、明治十八年家督を繼承してより、依然として漁業を經し大漁業家として起ち又大農場主として、壽都管内の牧畜主として幾多の事業を經し、一として成効せざるなく、豪族益々豪に、一門の士盡く顯はる、殊に吾人の氏を推重措く能はざるは、氏の歌棄水産組合長として、水産物改良に熱中し、又壽都、島牧、歌棄、磯谷四郡水産組合聯合會々長として克く統一の實を示し、水産物改良に各郡一致の步調を取り遂に〆粕、鯑、昆布、罐詰類の聲價を海産市場に高からしめたるの一事是れなり、思ふに壽都管内各水産組合の着々水産物改良の實を擧げつゝあるもの一に佐藤氏の力たらずんば非ず、榮右衛門氏も又偉丈夫なるかな。

●中田善八君（壽都町漁業家）

往年本道の有志、十一州大會を組織し、時の長官園田男の秕政を彈劾し、幾多の本道問題を提げて中央政界に呼號したるの時、大會司令者として會長に推されたるは中田善八氏なり、道會議員として議場に立ち、賦課税問題に對し議員間陸派海派に分れ、一大戰鬪を開始したるの時、海派議員の牛耳を執り、善戰健鬪、陸派議員を戰慄せしめたるも中田善八氏なり、函館郡部第二期代議士選擧の行はるゝや、壽都管内四郡を提げ、大同派の領袖横田寅彦氏と對戰し、惜むべし少數の差を以て敗れたりと雖も、敵の根據函館郡部に蠶進し其の中堅を突破して、流石の横田氏をして其敗戰を豫期せしめしも中田善八氏なり、豪奢豪遊一擲萬金屑ならず、他の急を放つて千金土塊の如く、行動の雄飾伯爵の名を十一州に歌はれしも中田善八氏なり、噫中田氏は一世の雄、男子生れて豪懷倜儻中田氏の如くにして、始めて眞男子の面目躍如たらずや、然り中田氏は眞男子中の眞男子なり、豪懷磊々酒を呑む長鯨の百川を吸ふが如く杯を把つて叱咤する處、天下の豪傑眼中に無し、中田氏は一世の雄なるかな、而かも其の出身を糺すは壽都の一漁業家たりと云ふに過ぎず、十八歳父の遺業を繼承し漁業を經營して今日に至れりと云ふに過ぎず、門地必ずしも高からず學識必ずしも豐なるに非ず、而して聲名を馳する雷の如く、時人呼んで本道の重鎭と爲すもの又奇ならずや、蓋し中田氏は傑中の傑、天與の偉器、尋常細鱗の伍すべからず、尋常の規を以て律すべからざるの人、寔に現代の珍たるを失はざるなり。

●松井源内君（壽都町實業家）

壽都の地一異彩あり、前代議士を有する乃ち是れなり、松井源内君は函館郡部に於ける第一期選出代議士なり、吾人は徒に勳四等を尊しと爲さゞるも、松井氏の偉なるの点に於いて氏に服せざるを得ず、函館郡部の始めて代議士を選出すべき勅令に接するや、群雄等しく起つて鹿を郡部の野に追はんとす、而して壽都管内の向背は以て勝敗を決すべき群雄等しく眼を壽都の向背に濺ぐ、果然松井氏、壽都公民會に推されて馬を陣頭に進め、巧に勁敵を制して當選の月桂冠を得、松井氏の聲名大に江湖に喧傳さる、氏安政五年七月廿二日を以て佐渡國眞野村字新町に生る、明治六年本道江差の地に航し、微々たる呉服行商を開始せり、看よ壽都の富豪として知られ、前代議士勳四等の榮譽ある肩書を有する松井氏の呉服行商人より成効したる一事を、此の點に於いて氏は立志傳中の人にして、又推して以て摸範的成効家と爲すべきなり自來幾星霜の辛勞次第に資を貯へ、明治十七年五月地を壽都大磯町にトし、獨立呉服太物店を開き兼るに海産商を以てす、是れ氏が聲名今日を來せし端緒なりしなり、斯くして氏は一市民として壽都の地に立ち次第に信用を博し、手腕を認められ、業務の隆年々の收利少なからず廿六年酒造業を開始し、釀造場を島牧郡本目村に設立し、廿八年更に回漕業を營み、別に漁業に從事し、諸事業着々成効し、遂に巨然たる一家を爲し聲名を知られ、代議士たるを贏ち得たり蓋し松井氏聞達を求めず、人多くは氏の偉材を知らず代議士當選後始て之を認めたるに於て氏や眞に摸範的成効家と可謂也。

◉小町佐吉君（壽都町長）

壽都の地小なりとするも、其の群雄の多き星辰の如し、産を以て起つ者、智を以て起つ者手腕を以て起つもの、學を以て起つ者、各々相ひ對して苟くも他の干渉を許さず、前代議士の町會議員として去嘯するあり、前道會議員の町政に參與して、嵎を負ふ虎の如き慨あり、壽都公民會なる團体の、偉太なる勢力を函館郡部の政治界に有し、漢の天下を三分したる蜀漢の勢を示し、動もすれば、江東を衝かんとするもの、寔に是等群雄の心を一にして外に對するが爲めにして、壽都群雄の統御豈に容易の業ならんや、小町佐吉氏は壽都の漁業家なり、而して町長として町政施設の主腦者となり町政圓滿に、自治の好績著しく群雄一人起つて氏の非を鳴すものなし、不知、是れ如何の爲めに然るか、小町氏は統御の偉材なればなり、小町氏は將に將たり得るの度量手腕あればなり、卅六年町長に擧げられてより、在任六星霜此の間本道自治の名物なりと稱せらるゝ紛擾は、一度も壽都町會に起らずして町民齊しく好町長を得たるを慶し、相共に語て曰く、此の好町長斷じて失ふべからずと小町氏の町民に信頼せらるゝ此の如し、小町氏眞に偉器なるかな、氏安政二年一月十一日を以て江差中歌町に生る、先考は小町榮吉氏能登の人なり、年僅に十七歲、本道江差に航してより、商に、農に、漁に諸般の事業を經營して盡く成効し、一代克く産を興して小町家萬代の基を開く佐吉氏三十六歲家を繼いでより依然漁業を營み、今日の聲名を博したるもの、壽都此の好町長あり、豈に獨り壽都のみの幸ならんや。

◉土谷重右衛門君（壽都矢追町漁業家）

土谷家は壽都に於ける、屈指の漁業家を以て知られ、時人呼んで大漁々業家と爲す、蓋し比年の凶漁、他漁業家不漁に苦んで采邑あるの時、土谷家未だ一度も凶漁に見舞れず、年々の大漁、漁期毎に歡呼の聲滿ちて洋々たるに依る、思ふに土谷家の不漁を知らざるもの其の經營に成る漁場の好良なるが爲めたる勿論と雖も、又積善の餘慶たるなからんや、先代重右衛門氏、英邁にして、雄圖あり夙に漁業を壽都の地に營んで、堅忍力行一代にして産を興し名を爲し、土谷家萬代の基を開けり現代重右衛門氏明治十五年を以て現住地に生れ、幼にして穎悟、長じて笈を東都に負ひ慶應義塾に入りて、修學多年、螢雪の勞空しからず、優等を以て卒業し、大に其の秀才を知らる卒業後一年志願兵となりて兵役の義務を完ふし陸軍少尉に任せられて歸家す、明治三十七八年の戰役起るや、氏踴躍軍に從ひ、旅順の惡戰、奉天の大戰至る處各地の戰に參與し、拔群の功、勇名三軍に嘖々として傳へらる凱旋後殊勳に依り、金鵄勳章功五級勳六等旭日章を下賜され、氏の勇名更に又傳へらる壽都軍人團組織せらるゝや　氏副團長に推され在鄉將校の摸範を以て知らる、思ふに氏や壽都管內有數なる資産家の家に生れ、軍國に處しては赳々たるの武夫、胸間金鵄の章は燦として不朽の勳功を語り平時に處しては孜々として漁業を營む、何等羨むべきの偉才ぞ其の漁場の年毎に千石場所の名を博して不漁を知らざるもの、天の土谷家に幸する爲めなりとは云へ、又氏の偉才に俟つや勿論たり、氏の前途も又多望なるかな。

◉帶向與惣衞君（壽都町大磯町）

帶向氏は、壽都町に於ける巨商なり、一身壽都に商店を開き海産商を爲し、東島牧の地、本目村に漁業を經營し、別に郷里信州に於いて、肥料商に乘るに機業を以てす、而して又壽都町會議員として町政の施設に參與す、凡そ是れ等の諸事業、其の一を爲すも、倘ほ其の經營を難しとするに、帶向氏や一身數業を兼ね營み、啻に其の施設を誤らざるのみならず、着々成効し、巨商として知られ、資産家として重ぜらる何んぞ夫れ多能多才にして精力の絶倫なる、寔に多能にして多才、加るに精力の群に絶するにあらざれば、成効を羸ち得ん事能はざればなり、吾人は帶向氏の成効に服し氏の偉材なるを欽す、氏信州の人、嘉永元年を以て信濃國東筑摩郡東川手町に生る夙に志を本道に寄せ、明治十三年本道移住を企てゝ渡道し、地を東島牧郡本目村に相し雜貨店を開き傍ら漁業に從事す、氏經營の巧着々成効し、其の人格は忽ちにして聲名を馳せ廿八年學務委員を命ぜられてより、島牧郡水産組合評議員、水産物營業人組合納税員、村総代、郡総代人に歴任し、島牧郡に於ける公職一として帶びざるなし、卅六年居を壽都大磯町に築き、海産商を開始し、漁期中のみ島牧に出張して之れを監督す、養嗣子作一氏は明治十三年の出生にして、長野師範學校を出でゝより帶向家に入り岳父與惣衞氏を援けて商業漁業經營の衝に當り、又年々交代歸郷して郷里に於ける肥料並に機業を督す、吾人は帶向氏成効の偉なるを湛ゆると共に他企及すべからざるを知る、寔に帶向氏は傑中の傑として尋常の器にあらざればなり。

◉伴佐太郎君（後志新報社長）

新聞經營は難事業中の至難事なり、幾多の新聞經營多くは蹉跌し、忽にして起り、又倏にして倒るゝは之れが爲めなり、蓋し主義主張の伸張と、營利とは多くの塲合一致するものに非ず、新聞經營の難きは是れが爲めなり伴君佐太郎、壽都の地に後志新報を經營してより已に多年、基礎益々堅く社運年と共に隆盛に、南後志に於ける、唯一の言論機關として政治新聞として、成効しつゝあるもの、伴君經營の如何に巧なるかを知るべく、又如何に君の苦心せしやを察すべきなり、伴君は會津藩士、文久元年四月四日を以て若松城下に生る、先考を百悦氏と云ふ、氏其の長子たり、家代々五百石を食み、門地高く、名聲を知らる、王政維新後、氏歐洲に航し親しく海外の事情を調査せんを企て、籍を海軍に懸けて其の機を待つ、然れども不幸にして海外に航するの機なく雄圖徒に蹉跎たり、氏深く天の志に幸せざるを慨し、去つて北海に航し北門の新天地に爲すあらんを企て、汽船函館丸に乘じて北海に航する前後二星霜、稍や其の狀況を知るに及んで、職を函館縣廳に奉ず時に明治十五年たり、在職三ヶ年、十八年江差の地に居住し、商業を經して成らず、企圖謀く失敗に歸せしも、氏や毫も屈せざるなり、更に居を壽都の地に轉ず、自來漸やく順境を來し卅二年十一月鴻盟社を創立して、活版印刷の業を起し、更に隔日刊行の後志新報を發刊してより、伴君の基礎全く成り、其の社運の隆は隔日を改めて日刊と爲し、其の名聲は推されて壽都町會に選ばれ、壽都の天一人君を知らざる者なし、偉なる哉。

●堤　三郎君（東牧島郡輕臼村）

本道水產界の快男兒、嶋牧郡の重鎭たる堤氏三郎君は明治五年を以て青森市蜆貝町七十番地に產す、前代三郎君が一子にして幼名を勝廼と稱す、明治初年父三郎氏妻子を携へて蝦北に飛遊し、現村に留つて漁業を營む、偶々本道の地や蝦夷と呼ばれ廣漠たる一荒村、水利又大いに昇り日を逐ふて家運榮昌を極め、更に期畫を描くの折柄、卅八年不幸父鬼籍に歸り、君其跡を襲うて家督を繼ぐ、爾來大いに幸運を恣にして隆々父の遺業亦大いに擴り現下經營する處の漁網十統に亘り更に釧路郡白糠に於て之が一統を營むと蓋し君資性篤實一志以て百折屈せずよく其初志を一貫せずば措れざるの慨を存し、衆庶自ら尊嚴を篤うす即ち撰はれて村會議員たりし者多年、蹟大に擧る、更に閑却謊君は鄉里青森市に宏壯なる邸宅を搆へ、而して歲々其漁を收るや、玆に歸へつて風月を樂しむと、君が高母尙世に在りチセ子と呼ぶ、頗る貞淑常に公擧に盡瘁し歲月尙是れ足れりとせず、今日堤氏が巨万の財を積んで壯宏を搆ふる者一に先代三郎夫妻が力に因ると宜なる哉、賢母チセ子奇才の君にして此賢母あり、家運の將來隆々たるもの拳を握つて大地を打つに比せん乎、噫々君は眞に漁界の快運見なり矣。

●阿部松之助君（東島牧郡輕臼村漁業家）

東嶋牧郡輕臼村漁業家阿部松之助氏は、苦心成効したるの漁業家なり、木挽職の微より身を挺して、遂に東島牧郡知名の漁業家として知らるゝ今日を來せり、吾人は氏の成効を思ふ毎に其の辛勞難苦の大なりしを想はずんば非ず、阿部氏弘化元年を以て南部の地に生る家は代々木挽職を以て起ち、氏又斯業に習得す、然れども刀鋸を把つて鄉關に老ゆるは氏の志に非ず、思へらく男子生れて志を當代に逞ふせんとする、北海の新天地に業を啓いて子孫百年の大計を樹るにありと、世は王政維新の變亂に騷然たるの時、奮然本道に航し足を東島牧郡永豐の地に留め、親しく狀況を視察し、刺網漁業に從事す、氏の精勵なる春夏は漁業に從事し、秋末より冬期に入りては本職たる木挽業に從ひ、一年三百六十餘日、一日の安を求めずして精勵し、勤儉自ら奉じ節約世を處し、奮闘十年、明治九年を以て、遂に建網を營むに機運を開けり、是れより先き居を輕臼村に轉じ、漁場を創開す、當時屢々米塩の糧に欲き、困憊云ふべくも非ず、屋內壘を敷く能はざるもの三ヶ年に達せしと云ふ知るべし氏の如何に難苦と健闘せしかを、去れど建網を建つるに至つて家運次第に開け資產年々に增殖せられ、遂に資產家を以て知らるゝの今日を贏ち得たり、氏今や東西島牧の地に於いて漁場を有する十四ヶ所、內三統を經營し、他は擧げて貸場所と爲し悠々殘年を養つて老を樂しみつゝあり、思ふに氏の成効たる一日の安を欲せざる精勵と茅屋內壘を敷かず、米塩の糧を缺くの境遇に奮闘したるの結果にして眞に偉なりと可謂也。

◉阿部倉庫部（壽都町岩崎町）

壽都町字岩崎町に於ける、阿部倉庫は、東島牧郡輕臼村の漁業家阿部松之助氏經營事業の一部にして、同氏の長子良吉氏主として經營の衝に當りつゝあり、良吉氏勇邁の意氣父の血を承け、加ふるに新進の敎育を受け、其の手腕の敏、經營の巧、一人氏の施設を滞らざるなし、蓋し松之助氏は敎育熱心家なり、身流離難苦の間に生長し、文字に親しむの暇なかりしを嘆じ、明治十四年居村輕臼村に學校の設備なきを慨し、大に其設置の必要を唱導し時の郡長を動して學校設置の許可を得、自ら資を投じて學校を新築し、敷地と共に擧げて之を寄附し、依て以て輕臼の地に學校あらしめたりき、斯くの如き敎育熱心の氏、明治十年息良吉氏を擧げてより、一意其の敎育に腐心し、良吉氏敎育の爲めには、何物をも吝まずして良吉氏を敎育せり、去れば良吉氏は最も完全なる敎育を受けて學識豊に、加るに天稟の英才を以てす、一度壽都の地に倉庫業を企てゝより、父を說き巨費を投じて、堅牢巍々たる煉瓦建築の倉庫を岩崎町に設立し自ら經營の衝に當りて開業す、時に明治卅七年たり、蓋し倉庫業の要は業務の閑散を來さゞるにあり、其の閑散を來さゞらしめんとする第一倉庫の堅牢なるを要す、堅牢ならざるの倉庫誰れか貨物を托さんや第二其の料金の低廉なるを要す倉敷料高價にして貨物を蒐集せんとするは非なり、良吉氏の巨費を投じて倉庫の堅牢を期せしは第一要義の爲めなり、而して良吉氏の經營の巧なる倉敷料の低廉を以てす、其の業務の隆盛を來し阿部倉庫の名嘖々たるもの偶然にあらざる也。

◉高橋淸吉君（歌棄種前村漁業家）

歌棄の地古來より鰊の好漁地として知らる其地名の他郡より嘖々として傳へられたるもの獨り松前追分節に歌はれたるが爲めのみにあらざるなり、寔に古來より好漁地として知られたるに依る者たり・去れば其の開發進歩最も古く、松前藩政當時より、歌棄沿岸二里の地漁家櫛比し、漁撈の法又發達す、現時歌棄の地に知名なる漁業家の多きは之れが爲めなり・噫歌棄の地、吾人は本道漁業の發達を思ふ每に是れ等歌棄に於ける漁業家の功勢を想はずんば非ず、昔者各地に赴くの所謂船頭なるもの、多くは歌棄の地に於いて敎育されたるを知ればなり、高橋家は種前村に於ける知名の漁業家なり古くより建網漁業家として知られ、現代淸吉氏は漁業家中の漁業家なり其の漁撈の道に精通し、又本道漁業界の變遷に通する及ふもの少なしと云ふ、淸吉氏天保十三年九月十五日を以て生れ、幼時より漁業に從事し、所謂漁村に生れて漁村を去らざるの人士、少壯家を繼ぎ、自ら經營の衝に當つてより精勵克く其の務に盡し、苟くも屈せず一勝一敗は漁業界の常時、時に不漁に見舞るゝあるも平然として之に處し、是が爲めに何等變色を帶びず、努力奮鬪、遂に角網五統を營むの隆を來せり、氏の漁業に熱心にして鋭意なる又他を知らざるものゝ如く漁業以外氏の視聽を牽うに定るものなしと云ふ、樺太我が有に歸するや、直に樺太漁業を開始し、一身兩地に處して多々益々辨じ、老いて意氣愈々壯に、强健壯者に讓らず、噫高橋氏は漁業家中の漁業家なり、吾人は切に氏の自愛益々本道漁業界に盡さんを望むもの也。

●高橋英隆君（壽都矢追町漁業家）

高機氏は、壽都に於ける有力なる漁業家なり資性溫厚篤實公共心に篤く、身は壽都町會議員に擧げられて、町政に參與し、自治の發達に貢献し、財力を公共事業に捧げて、籍甚たる聲名を傳へらる、漁業家としては水產界に成効し、公人として又顯はるゝに於いて、吾人は高橋氏の人格の偉なるに敬服するものなり、經濟の才と、識見智慮兼ね備ふるにあらざれば能はざればなり、噫高橋氏や聞達を求めずして名自ら顯はれ巨然として重きを壽都の地に爲す、氏寔に傳ふべきなり、高橋氏本姓は藤山、慶應元年三月八日を以て江差に生る藤山家は、龜田郡龜田村の舊家にして、家祖渡島國に藤山村を創開してより當代に至るまで十四代連綿として絕えず、職は歷代神官の任にありて、龜田村知名の名家たり、英隆氏此の如き名門に生る、氏の識見群を拔き、智慮又衆に超ゆるもの偶然たらざるなり、長じて種前村（歌棄郡）の漁業家高橋家の養嗣子となり、自來高橋を姓とす、高橋清吉氏は其の本家たり、一度壽都に漁業を經してより着々成効し、年々の漁利苟くもせずして、遂に資產を以て知らるゝ今日を來せり、氏壽都地方の年々漁業衰退に傾き、一年又一年、漁業界の前途悲觀すべき理由を認むるや、之れを救濟するの水產物の製作を改良し、其の品質を善良にし、依て以て價格を高むるにあるを知り、銳意水產物の改良に熱中し、其の製作になる鰊鯑の如き、品質善良 改良の實を擧げ四十一年小樽水產共進會に出品するや、進步一等賞を與へられたるが如き、氏の如何に製作改良に熱心なるかを知るべき也。

●種谷利八君（壽都町漁業家）

種谷利八君は、聲名ある壽都町の漁業家なり之れを聞く種谷家の祖先は南部藩士と、故ありて民間に下り、歸農せしなりと、氏の先考文治氏勇邁にして遠圖あり、夙に本道漁業の有利なるに着目し、幕政時代已に江差の地に於いて漁業を經營し、嚴たる一家を爲し、慶應元年九月江差の地に利八氏を擧ぐ、壽都の地の好漁地として開發せらるゝや、文治氏乃ち居を壽都に轉じ、家を矢追町に卜し、依然として漁業に從事せしも、惜い哉、明治廿年四十三歲を一期として病沒せり 利八氏時に年已に廿二歲 直に家を繼ぎ、遺業を經して先考の志を改めず、經營次第に步を進め資產年と共に增殖し、家門の隆、聲名愈々知られ明治卅五年一級町村制の施行せらるゝや、推されて町會議員に當選し、自來其の選を涂へず、改選每に當選し現に其の職にあり、其他水產稅區會議員、漁業組合委員に選ばれて今尙ほ其の任にあり、氏公共心に厚く、事の公共に關するの限り資を投じ、財を寄せて吝まず、之れが爲め、木杯並びに褒狀の下賜されたるもの前後十餘回令息德太郞君、明治十八年を以て生れ、卅八年札幌中學校を優等にて卒業し進んで東都に出で、早稻田大學に入學し、目下在學中にして秀才を以て知らるゝと云ふ思ふに種谷氏の漁業家として成効したるもの先考の餘光に因るとは云へ、又氏の勤勉にして方直、誠實にして私しなきの精勵と、經營の巧とに依るものと云はざるを得ず、氏たるもの水產界の爲め自愛せざる可らず。

◉山川政吉君（壽都矢追町漁業家）

山川家は壽都に於る有數なる漁業家にして、同家の今日あるもの、一に先代岩吉氏の力たり、岩吉氏勇邁にして豪放、渉たる一刺網業者より身を挺して、今日の山川家を贏ち得たるの人士、其の偉材たりしや言を俟たざるなり、岩吉氏又力を公共事業に盡し、開拓使時代より表彰せられたる一般を擧ぐれば、一、年寄申付候事、壬午四月(開拓使)、一、金五十圓也、右年寄手當として下賜候事、(壽都開拓使出張所)、斯くの如く岩吉氏は明治の初年より年寄を仰せ付けられ、自來組長、世話係、伍長、總代人等一として歴任せざるなく明治十一年九月中歌學校新築費に十一圓を寄附し木杯を下賜され、更に新築世話係慰勞として麻一包金二圓を下賜され、十四年函館大火罹災民救助金三圓を寄せて木杯を下賜され同年十二月壽都公立病院設立費十五圓を寄附して木盃一麻一包を下賜され、十八年壽都桴岸間道路開鑿費に金十圓を寄附し木杯を下賜され、廿年虎列剌病豫防費に四圓を寄附して褒狀を受け、廿年壽都小學校新築費として四圓人夫二名を寄附して褒狀を下賜され、廿二年壽都新榮町出火に際し罹災民救助として金十圓を寄附し木杯を下賜され、廿六年壽都小學校建築費に金四十圓を寄附して木杯を下賜せらるゝ處、多年一日の如く公共事業に盡し廿六年老を告げて隱居し、現代政吉氏家督を繼ぐ政吉氏經營の才に富み、畫策に長じ、往來建網一統なりしを二統に增加し、經營施設一も誤らずして聲名を博し、推されて町會議員に當選し、現に其の職にあり、山川家又好後繼者ありと云ふべきなり。

◉桑原松藏君（壽都矢追町漁業家）

守成の寧ろ創業にても難き、賣家と唐様で書く三代目の川柳子の警句に待つて後ち之れを知らんや、思ふに守成の難其の三代に於いて殊に然り三代にして偉才を得んか、其家必ず興り、否らされば其の家の祭必ず絶ゆ、一家の興廢多くは茲に在り、桑原松藏君は桑原家に於ける三代なり、而して氏の偉才大に用ゆべきを見る、桑原家萬代不易の基、必ずや君に因りて開かれんなり、氏の祖父德藏氏は檜山郡江差の人、身を窮乏裡より挺して、志を漁業に抱き、壽都郡政泊村の地を相して漁業に從事す、然れども因と是れ渉たる刺網業者窮乏頻りに相亞ぐも、德藏氏屈せず、粒々の辛勞、偏に望を將來に屬し、僅に漁業の基礎を樹てゝ沒す、嗣子松藏氏勇邁にして機略あり、其の政泊の地よりも、寧ろ壽都に於ける漁業の有望なるを看破し居を壽都矢追町に轉じ、先考の志を完ふせんを期し、鋭意漁業を經營し、遂に建網を建るの機運を來せり、自來經營の巧、年々漁利を收め、遂に巨然たる一家を爲し桑原家今日の隆を來せり、氏の令閨みさ子、賢にして明、克く松藏氏を援けて家政を整理し、松藏氏の成效、此の賢夫人に負ふ處少なからず、松藏氏又公共心に篤く力を壽都の發達に濺ぎ、村總代人時代より總代人に擧げられ、自治制施行と共に町會議員に選ばれて自治の發達に貢献する等大に其名聲を知られしも、卅七年九月五十七歳を以て病沒せり、現代松藏氏明治十年を以て生れ幼名は芳雄廿八歳家督を繼き襲名してより、家道を改めず、克く守成の難に處して悠然たり桑原家の隆故ありと云ふべし。

●壽都銀行（壽都町大磯町）　地方金融界の唯一の機關として文明的行務を統轄し敏腕の令聞高き者現任支配人久保卯之助氏の炯眼よく斯界を洞察して奇策を弄するに因る、而して創立は三十二年二月十五日の着業に在り、資本金十万金と註せられ現下積立金五万九千五百餘圓を算す、現支配人久保氏曾て第三、安田の兩行に敏腕を磨かれ四十年茲地に榮轉せられたるの人、因に添す本行亦支金庫の事務を取扱ふと。

●丸キ印内山呉服店（壽都町大磯町）　價値の廉は粗惡にわらず勉强の故也、商品は堅牢なるも高價に非ず誠實なればぞ也、丸キ呉服店の特色玆に存し、土地の好評も亦偶然ならず、主人内山喜兵衞氏富山の産、來道の當初より依然此地に居を占め土地の元老を以て鳴る、其營業の傍ら撰ばれて町會議員たり、推されて壽都銀行專務の要職を帶び、有望の人材と目せらる。

●壽都瀛船株式會社（壽都町大磯町）　由來本道西海岸の地や小湊尠からず從つて貨物の集散、旅客の往來、迅速を期するの必要上、壽都町有志の發提に基因して創立せられたる者壽都汽船株式會社と爲す、松井源内氏社長兼取締役として社務を制轄し現時六百株百三十一人の株主を以て組織し汽船壽都丸を以て沿岸を運行せしむ、其稗益する所常に西海岸のみならず本道殖民上に至大の利便を與へ而して資本金三万圓と稱せらる。

●壽都倉庫株式會社（壽都町大磯町）　其組織並に趣旨の點に於て壽都瀛船會社と同一の發程を經由し倉庫業を以て社務を經續す而して松井源内氏を社長に戴き十三名の株主を以て

四百株を組織し資本金二万圓と註せらる。

●丸桝印豊原由太郎君（壽都町新榮町）　君は嶄新なる改良法に基きて淸酒の釀造に腐心する多年銘酒「由野川」「金峯山」の造石に從ふ、該酒の色や淡黄琥珀の如く透明にして万人の嗜好に適する所寧ろ大坂酒に優るとの好評を博せり石川縣は君の郷里、明治廿一年、年廿五才にして渡道、函館に卜居同地にありて酒釀に從ふ事三星霜、後壽都市橋山藏氏の招致に應じ來都、廿九年獨立して現業を執る、聞く君は十七八才の頃より斯業に熟達し老練を以て知らると宜なる哉北海十一州聯合品評會に於て由野川は賞優等を賜り、金峯山は一等に撰ばれて名譽を博せり。

●三印中田商店（壽都町大磯町）　呉服太物和洋小間物、洋酒罐詰御小賣に加ふるに度量衡販賣を以てし將又煙草元賣捌商として壽都港内に名聲嘖々巨なる者を中田商店と爲す、店主中田忠治君少壯にして敏腕比なく炯眼巧みに商機を算し其德望を稱へらるゝ者其經營妙にして黽勉勵精なるに基かずんばわらず、而して君は更に、東京火災海上、帝國、日本、大同、愛國の各生命保險株式會社の代理店として信用獨り高く、其營業は頗る確實を以て知られ敏腕巧みに所務を察理し隆、今日わらしめたるの功、又偉大なりと謂つべし。

●丸タ印薄田商店（壽都町海産商）　壽都町實業界の先進家薄田太藏氏の經營に係り、店頭高く海陸産　鮮魚御商を標榜して顧客の至便に努む所、繁盛日に增し財寶月に榮ゆ、主人太藏君頗る磊落にして俠氣に富み地方有材の人士として信用益々隆し夫れ古人曰く薄利は利

益を收むるの基と主人よく其間消息を會得したるものと言ふべし。

●曲サ印小西商店（壽都町大磯町）　清酒千歳の大販賣として夙に壽都酒客に芳名を知らるゝは小西商店也、而して加ふるに米穀荒物、海陸物産の問屋を以て自負する所、店主小西喜一郎君明治七年の生、富山縣西礪波郡津澤村の産、卅一年渡道現地に相居、初來斯業に在り開店と共に聲譽の名價を博し四十一年秋倶知安驛前に該支店を設置せらるの隆々を致せり。

●遊ト印西田商店（壽都町大磯町）　壽都町に於ける海産物肥料問屋として隆名高く實業界に鏘々たる者先づ西田商店を推さゝる可からず、店主西田清松氏、福井縣越前國坂井郡鷹の巣の産、慶應三年を以て誕生、明治十八年津輕海峽を横斷して壽都に卜棲、荒物業山田商店に店員たる事少時、此間病を得て一旦故國に皈り超へて廿四年皈道して獨立現業を開く、爾來君が精實勉强の德は隆々を産み、今や地方有力の商舖たり、傍ら辨慶岬に漁網一統を經營するあり、外は初期來連綿として町會議員たり、水産組合議員たる者其人材鏡ふべし。

●吉川大盛堂（壽都町大磯町）　活潑にして着實の風を備へ剛毅にして義俠の志厚き人、之れ吉川大盛堂主人十九太郎氏の特質たり、而して聞く生國は渡島國上磯郡茂別村字茂邊地の産、明治十九年の出生に屬し人と爲るに及んで夙に實業に志し、岩内にありて藥種主池田大盛堂に斯業の手腕を練磨し、後辭して現地に來り獨立店舖を搆ふ、而して商ふもの藥種

賣藥、化粧品、文具類、護謨印、繪具にあり、更に諸新聞の取次販賣を加ふと。

●松下酒造店（壽都町大磯町）　松下商店は壽都有數の釀造家たり、店主松下仁吉氏夙に精巧熟練を以て幾多同業者の間に一頭地を拔く、今や近郊遠隔の地より注文引きも切らず、店頭益々殷盛を極むる者如何に其釀造品が精良なる乎を想像して余りある也。

●三キ印西岡回漕店（壽都町大磯町）　營業の確實なると貨物取扱の懇篤なると迅速なる毫も荷主に對して不便を與へざるは本回漕店の特得の技能に屬し未だ一も顧客の怨念を買ひし事なしと聞く、店主嘉一郎氏よく現時回漕界の通弊を脱却し尤も文明に業務を處理しつゝあり、從て廿八年開業以來、今日の隆盛に到りたるもの强て之を説く寧ろ贅たらんのみ。

●一△印中會商店（壽都町大磯町）　壽都町に於ける海陸物産、荒物雜貨商として隆名ある者を撰まば先づ中會商店を推さゝる可からず、誠實にして業務に勉勵し懇篤以て顧客に接す店主多志吉氏は石川縣の産、頗る壯志を抱いて渡道、後壽都に卜棲するに及んで廿二年頃より現業に從ふ、爾來信用益々厚く營業殷盛を極め後來將に囑目すべき好商店たるを失はず。

●曲上印上野商店（壽都町大磯町）　奇才ありて商略に通じ有力家にして嶄然壽都實業界に頭角を現すは店主上野喜七君其人也、君は越中國の生明治十七年小間物卸小賣業に志し後下駄商を兼ぬ、後自家の繁盛を企圖するに及んで之が製造を開始し、今や北越地方並弘前方面へ輸出する者益々盛大を極む、然して小間物にありては殆んど同業の企及すべからざ

る所日常十五六名の行商人をして全道各地に商はしめつゝある者あるに因て其盛大知るべき也。

●井原爲世君（壽都町新榮町）

君は明治二年春三月福井縣下に產る、而して本道の地君の足跡を印したる者越へて同十二年　當初余市に航し同所に留まる、後ち志を官海に傾け俗吏生活に甘する事數歲の後、慨然官職を抛つて實業を企つ、時に廿六年、先づ海陸物產荒物商に從ひ其敏腕を試む、商略圖に當り高策相到り名望四隣に汎し、偶々三十二年衆望の推す所、水產組合議員に舉げらる、三十八年擴張策第一策として壽都町に出張店を設置し、君亦居を移して現地に措かる、經營する所該海產陸產を商し、海に投網を業とし水產を收む、而して傍ら高橋家を補佐する者既往の如しと、北海の地亦偉才君の如きあるを榮とし吾人と悅を與にせん已而。

●山一印小澤正平君（壽都町大磯町）

君は近江國犬上郡高宮の產、慶應元年呱々の一聲を擧ぐ、十二才にし阪地の伯父に身を寄せ在る事二年、後橫濱の伯父を賴り、十六才にして上京商業に志したるも故あり故國に皈る　越へて齡廿四歲たるに及んで渡道函館に渡り暫く某商に店員たる事一年、後萬瀨戶類を行商する事三年に渡り、廿三年行商の途次此地に居を相して鄉友杣田支店を三人にして引受けたりしも後單身の經營に皈し茶瀨戶物商を經んで現日に到る。

●丁吉印梅本旅館（壽都町大磯町）

主人梅本吉三郎氏は頗る義俠家で地方に知られたるの人、高等の旅館として企及する者なく、旅客を扱ふに尤も懇切丁寧、貧なる者を救て慈善を施し其毫も誇るの色なし以て衆庶、奇人と評す、其開館は明治十二年に基を置き連綿今日に及ぶ、現時旅館の傍ら、海陸物產商を營み　西に東に能く勉め能く商ふ、以て毫も倦むなきは衆人の摸範たるべき者たるを失せず、君に息あり好文と呼び目下大和國に醫を業とすと。

●花月樓の上笹谷料理店（壽都町新榮町）

壽都の地、第一の旗亭を尋ねんか、先づ知るも知らぬも擧げて笹谷を指さすべし、笹谷料理店一名を花月と稱す、春の朧の櫻月夜ッヽンと高音の窓外に漏れては行人眉を顰むべく、蕭條たる長雨の朝粹な唄聲に春雨と來ては堪まつたものにはあらざるべし、況んや甘雨の美味に陶薰として深酌低唱の妙味にありては全く花月に限るよとは齊しく粹客の頑張る所夜を徹して睦言笑の花が咲き月に覗かれて袖屛風ならぬ押入の陰に隱るゝもありとは虛か誠か、主人笹谷鐵四郎氏は山形縣庄內の人、十六年壽都に來り、粹な黑板塀を構へしも二度の火災に見舞れて、三十九年小樽に轉して花園町に笹谷と言ふを開きし後再び現地に大樓を新築したるが現時の構へ、殊に繁昌の守本尊、樓中に一枝の花あり小冬と稱ふ烟を罩むる水村の柳、雨を含むる一朶の櫻、金銀表裏の舞扇に梅にも春を唄ふ頃艷名磯打つ浪の音より高く、土地第一の花走妓見番の取締としいへはァ、あれかとは粹客の合点水際立つたる优姿、裾を惹いての優振りは之れを本書卷頭の寫眞銅版に就て知り玉いね。

●一の印吉岡請負師（壽都町開進町）　壽都町土木請負業者の間に介在し獨繁盛を極むる者一の請負師と爲す、而も骨肉相協力同業に盡瘁し夙く江湖に其雄名を恣にする所以の者、技術の精巧は更也協力の賜亦至大なるを懷はざるべからず、兄林藏氏明治十年の生、秋田縣南秋田郡大久保の人、弟嘉吉氏明治十五年の生、兄と鄕里を同じうす、而して父を林藏と謂ひ、兩子を從へて來道したるは明治廿四年、久しく土木請負業の雄鎭として嘖名を博したるも卅八年病を得て沒す、即ち長兄林藏氏業を襲うて現業に在り、嘉吉氏之を補助して父の遺業を助く、如斯にして隆々今日に得たる者、更に聞く嘉吉氏嘗て征露の戰鬪に參加し勳八等白色桐葉章を有し東京陸軍電信敎導大隊を卒へ事業士として在學したりし經歷を有すと此兄にして此弟あり其繁榮を極むるも偶然にあらざるを了すべき也。

●笹谷勝太郞君（壽都町新榮町）

夫れ栴檀は二葉にして薫しく蛇は寸にして人を呑むと天下の至言之を擧げて壽都町の雄鎭笹谷勝太郞君の双肩に獻けなん哉、君は山形庄内の地港灣波靜かなる仙境に產る、鐵四郞君の嫡男たり、幼にして博識溫厚の令風を備へ人と交つて約を違へず、師に對して尊仰を致す、將に是れ万綠叢中紅一点の槪あつて存す、後父に伴はれて身を蝦北に投じ蒿遂に臥する者多年、偶々父該地に貸座敷業を營むや之が經營を命ぜられて之れを統理す、後之れを閨室に托し氏漁網を投じ海に漁し以て業とす、敢て贅す君は奇才に富み頗る孝心厚つく父母の言相致す所、火中亦辭せずと、噫々孝は百善の基也、君にして至善よく他輩の範たるべきもの此一事にあつて存す、請ふ愈々百善を盡し其所信を發揮すべきのみと云爾。

●曲ア印石井旅館（壽都町大磯町）　旅館の良否は土地の交通をトするもの壽都の地亦旅館軒を並べて收客を競ふ所獨り超然として梅本か石井かを謠はしむる者、よく其間の消息を諷刺して足る、座敷の清潔、料理の新鮮、懇切丁寧と一々特長を贅するは野暮たるのみ。

●菱一印松田商店（壽都町大磯町）　當方隨一の商店として繁盛を極め營業種目に曰く、內外雜貨、小間物化粧品、藥種、文具類、時計及附屬品と其商品の豊饒なるを以て卓越し寫眞繪葉書、新聞取次を兼營す、主人杉田氏秋田の產、明治十九年渡道し、廿五年現業着手の礎をトせりと。

●丸增印櫻井增太郞君（壽都町大磯町）　武力、細工、塗板屋根業を營み古着類を商ひ信用多大にして同業間に重視せらる君は營業益々發達してペンキ塗業をも兼營し共に隆盛を極む、聞却說石川縣珠州郡上戸村は君の鄕里にして明治五年の出生、十五歲にして先づ江差に渡り、卅五年現地に來住し、現業を開き現下の隆々に到る。

●曲三印松の家料理店（壽都町大磯町）　座敷の清潔、眺望の佳絕、良肉鮮魚を吟味しての献立は言はずも哉、小宴には尤も適し弦舞相和する所、美形酒間に舞ふ、以て快諾すべし店主池上氏は瀟洒の人、樓中に花あり曰く、福助、松助、助六、お京嬌艶將に櫻桃に比すべく嬋妍たる天色芙蓉の蕾を破るが如し、若し夫れ醉脚跟蹌皈る時、其織手に背を叩かるれば蓋し千金に値すべし、此樓にして此花あり絃音絕えずして月に松の家の賑しきも故あ

る哉、アラお酒がコボレテマスよ。

●山キ印中川旅館（壽都港波止場町）　客室の清潔、食物の新鮮に留意し專心旅客の至便を企圖するを以て嘖名赫々たる中川旅館は壽都港波止場前の好地にあり常に南船北馬の人競ふて集散し殷賑更ら也、其開業は三十二年の着業に係り中川喜與藏氏の經營する所機運日に開く。

●山本旅館（壽都町大磯町）　位置は支廳、役所、警察署、裁判所附近の適地に存し、四通八達の間に在介するなる山本旅館は壽都の好旅館にして常に注意周到行客の便益を計り、懇切丁寧を極むるを以て山本旅館の嘖名各地に到らざるなし、蓋し店主ミエ子の勉强と誠實を以て客に接するに基き今日の隆盛又偶然にあらざる也。

●新榮樓笹谷（壽都町新榮町）　旅亭花月樓の息笹谷勝太郎氏閨君の經營する所、宏搆の如何は賛せずもかな、此樓の特色は廉値にして貪らず輕便に遊ばしむるにあり、雛に匂ふ解語の花、匂ふ揃っては五六輪、笑つて助くる樓上の宴泣いて悲む落花の袂、はんら〳〵散る花の仇に開くもありとかや。

●ヰセ印竹林堂菓子舖（壽都町大磯町）　美術菓子掛物類の美味、特意製法の研究を主として顧客の舌頭を躍らしむる者主人藤田修三氏の精巧なるに因る、其現業を開きたるは明治廿八年にあり、爾來堂々幾多同業者の間に介在して隆名を博す下戸黨は須らく同店に求むべしと也。

●曲上印音羽樓（壽都町新榮町）　壽都第一の妓樓として評判高く桃櫻妍を競ふて粋客の垂涎万丈たらしむる者六妓あり曰く八千代、一松、みどり、花元、松浦何れも所謂上玉にして嬋妍たる風容五尺の男子を悩殺せしむ、上總乙次郎氏閨君の經營に屬し暴利を貪らさるは一流の風品を持す、乙次郎氏石川縣加賀の產、明治十年來道、卅六年現業を開き後閨君に托するに到つて漁業を營めりと聞く。

●丸中印中村兄弟商會（壽都町大磯町）　主として鞄護謨類の製造販賣に在り、會主中村末吉君は越前國大野郡大野町の產、明治三年の出生に屬し、年十五歲にして上京、靴製造の研究に腐心する事十六年間國に皈つて斯業に就き、後四十一年現地に來り開業するに及んで名聲を千里に馳す、君年齒未だ壯前途の有望想ふ可し。

●梅川樓（壽都町新榮町）　浮かぬ流れの川竹に浮いた笑顏を梅川の雛に匂はす六妓あり、夕に吳客の宴に侍し、晨に契る越客の袂憂き後朝〳〵の朝夕に、嘗て函館蓬萊町に浮いた雛を擴めた頃、大火に見舞れて解語の花を移し植ゐての繁盛とや。

●曲佐印畑中佐一君（壽都町渡島町）　清廉にして誠實の譽れあり資性着實にして交るに嘗て人を誤らず將に畑中君は土木請負業者中稀に見るの人傑也、君は明治七年を以て石川縣能登國珠州郡見附に生る、十二年渡道し、卅六年を以て現地に來る、而して近來建具小細具をも兼ね營むやに傳へ聞く。

●菱一印水江商店（歌棄村字潮路村）　米穀荒物、雜貨類を商ふ者玆地亦尠しとせず、然と雖

も資產の甚大と取引各般の正確に於て現下水江商店の右に出づる者なきの一事は以て盛大を卜すべし、水江氏名を外吉と呼び近江國坂田郡鳥居本村の產、嘉永六年にして出生、明治初年先づ巴港に航し、五年を經たるの翌年現村に來移現業を開き今や隆昌他に比く者なしと稱す。

●北海道銀行磯谷支店（磯谷村字島古丹）　樽港に嚴存する株式會社北海道銀行支店として行務を開かれたるは卅五年當初一派出所に過ぎざりしも卅九年支店の名稱を附せらるゝに及んで此地金融界に利大を與へつゝあり、現支店長梶原氏は四十一年八月札幌支店より轉補せられたるの人、夙に靈犀なる烱眼を以て金融界を洞察し令名頗る高し。

●一印野村商店（磯谷郡島古丹）　海陸物產商の偉塊を以て自任し、加賀國石川郡鄕村字三日市に產れたる野村小三郎氏は先天的實業家たるの技能を有し安政四年の出身たり、後長ずるに及んで其特性愈々研磨せられ明治十八年を以て大志を抱き本道に雄飛し先づ其居を磯谷に相す、而して其海陸の物產を集散して自店の繁榮を企圖するや商畧忽ち圖に當りよく衆庶の機先を制して依然實業界に頭角を拔く、現時盛々其隆を極め其繁を倍し晝夜殆んど其營業を絕さるの繁盛にあるもの洵に地方有數の實業家たるを失はずと稱へらる。

●荻原醫院（磯谷村字島古丹）　磯谷を知るの士は荻原病院の存在を知らざるなく、荻原醫院を知る者は院主荻原秀肇君の人格を知らざるなし、敢て宏壯の美を衒らはざるも來り診を希ふ者陸續踵を接し門前人の市を爲すの觀あるは獨り當院治療の巧妙に賴る、抑君は嘉永六年を以て加賀の國石川郡松任町に產したるの人、明治十七年先づ當初の技を旭村に試み、後京都及金澤公立病院に勤務する事多年、各科に曉通し卅一年四月南尻別村に村醫を拜して渡道の十月、横澗村に門戶を張る事一ヶ年、再三十二年現地に再び開業したるも故あり一旦歸國の後　超へて卅五年五月現村に該院を經營す術來益々隆々を來し、又警察醫の衙を帶ぶ。

●一△印船木商店（磯谷村字横澗村）　店主船木長助氏常に店員を督して曰く、誠實勉强は商家虎の卷也と以て營業振や窺ふべし、而して君は秋田縣南秋田郡船越村の人、安政元年產聲を擧げ、十八年にして現村に渡來す、當初先進佐藤榮五郎氏に身を托する事四年、後獨立して一業を經營する事現時の如し、因に營むものは米穀荒物、海陸物產、雜貨にありと

●安川醫院（磯谷村字能津登）　安川醫院は磯谷の名醫安川茂君の經營に屬し基礎の鞏固と醫術の精巧を以て醫界の雄鎭たり、君は鄕里を加賀國金澤市に有し、文久三年の產、其鄕里にあるや夙に斯業に志し、刻苦精勵其深遠を研究し、年廿一歲にして其頭角を現す、後本道の人となりしは廿五年の候、初來現地に於て門戶を張るや赫名千里の內外に聽き、來り診を求むる者日に數百を算すと、隆盛更に贅言を要せず、尙君は醫業の傍ら村會議員たり學務委員たりし者亦君の德望秀優たる與つて存す。

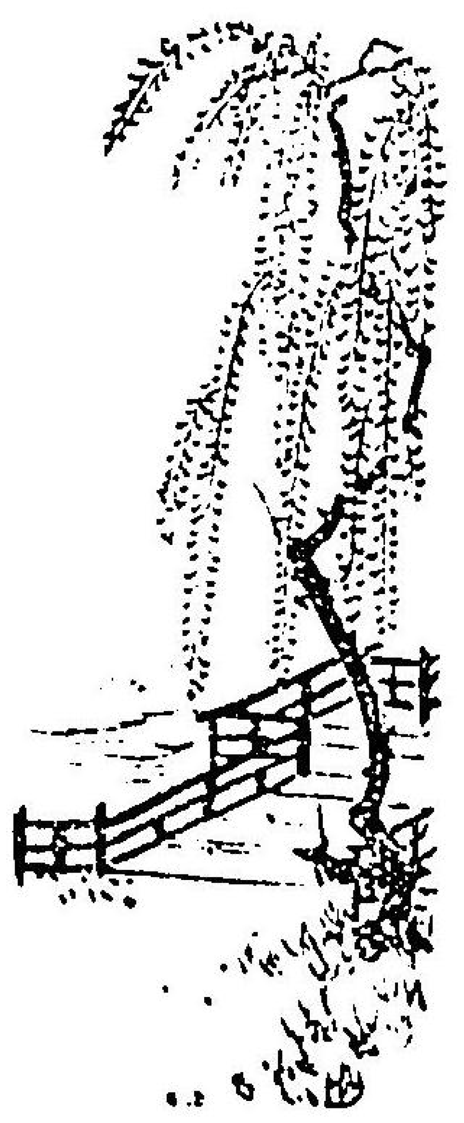
●冨士山田印藤田商店（磯谷村字横澗村）　米穀あり、荒物あり、雜貨あり、商ふ人は藤田定七氏西京の產にして嘉永元年の生、廿六年先づ一に現地に相棲現業を營む、熱心にして

勤儉に富み信用厚大にして商運日に發達し益々隆盛を極る者獨り店主の鋭腕にして、藤田商店の名地方に嘖然たる所以也。

㊉桝一印福島商店（磯谷郡北尻別村）　店主新五郎氏は近江國愛知郡西押立村字勝堂の地に明治十九年を以て生る、廿年現村に來渡、呉服行商に身を托ね、廿九年斯業を開く經營する者は米穀荒物呉服太物雜貨の外海陸物産木材販賣にあり、傍ら眞宗信徒生命保險會社磯谷代理店たり。

勤儉に富み信用厚大にして商運日に發達し益々隆盛を極る者獨り店主の鋭腕にして、藤田商店の名地方に嘖然たる所以也。

◎井一印福島商店（磯谷郡北尻別村）　店主新五郎氏は近江國愛知郡西押立村字勝堂の地に明治十九年を以て生る、廿年現村に來渡、呉服行商に身を托し、廿九年斯業を開く經營する者は米穀荒物呉服太物雜貨の外海陸物産木材販賣にあり、傍ら眞宗信徒生命保險會社磯谷代理店たり。



井筒堂

營業科目

髪油瓶詰鑵詰各種
麝香入びん附各種
和洋石鹸洗石鹸棒
舶來香水及香水紙
東京流行丸髷新形（助六形）（雲井形）
其他化粧品雜貨類一切

北海道小樽區眞榮町三十四番地
卸商　井筒堂油店

八丈島産純椿油發賣

漬物卸商

小樽區色内町卅一番地
佐々木篤藏
電話（三九四番）

仝 區妙見町七十一番地
仝 佐々木支店

札幌南三條西二丁目
仝 佐々木支店

上川郡旭川三條通り七丁目
仝 佐々木支店

夕張炭山市街地第三區
仝 佐々木支店

◎輕便鳥牛鍋◎

西洋御料理 小樽區入舟町
札幌生ビール 陸橋ノ上
札幌バタ ビーヤホール
ラートヘット
西洋野菜類
食パン

⌂二肉店部
電話（千百七十二番）

△新築落成誠實勉强▽

◎牛鳥豚肉卸小賣◎

化粧品 小樽區花園町
四海屋號

⌂二 藥種商東條喜太郎
△小樽公園通り花園學校通り

◎勉强と誠實は當店の特色

黒松内停車場前

高等旅館 大 千葉旅館

◎客室清潔 ◎食料新鮮
◎誠實勉强 ◎待遇懇切

小間物卸商
七分下駄製造卸

壽都町大磯町
上 上野善七
電畧（ウエノ）又ハ（ウ）

米穀
荒物
雑貨

磯谷村

大字横間字有戸山ノ上

藤田定七

米穀荒物雑貨
呉服太物
海陸物産木材賣買

磯谷郡北尻別村

福嶋新五平

眞宗信徒生命保険株式會社磯谷代理店

靴製造販賣
鞄ゴム靴類

壽都港大磯町

中村兄弟商會

客室清潔懇切專一

山本旅館

壽都港渡嶋町四十三番地

△支廳△裁判所△警察署△役場前便宜

誠實勉強

黒松内驛停車場前

旅館 小間菊太郎

壽都、歌棄、磯谷、行馬車取次所

取扱叮重

建具諸道具
荒物雑貨類
澤の壽銘酒
海陸物産商

各種

壽都町大字大磯町

中曾多志吉

略電(ナカソ)又ハ(ナ)

營業品目

宇治茶
瀬戸物
茶道具
ランプ類
硝子板
油紙類
コンニヤク粉
柿澁
玉澁

大販賣所

小澤商店

壽都町字大磯町

米穀
荒物
雑貨

磯谷村

（商標）藤田定七

大字横間字有戸山ノ上

米穀荒物雑貨
呉服太物
海陸物産木材賣買

磯谷郡北尻別村

福嶋新五平

眞宗信徒生命保險株式會社磯谷代理店

靴製造販賣
靴ゴム靴類

（商標）

壽都港大磯町

中村兄弟商會

●客室清潔懇切專一●

山本旅館

壽都港渡嶋町四十三番地

△支廳△裁判所
△警察署△役場 前便宜

誠實勉强

黒松内驛停車場前

（小）旅館 小間菊太郎

壽都、歌棄、磯谷、行馬車取次所

取扱叮重

建具諸道具
荒物雑貨類
澤の壽銘酒
海陸物産商
各種

一△

壽都町大字大磯町、

中曾多志吉

署電（ナカリ）又ハ（ナ）

營業品目

宇治茶
瀬戸物
茶道具
ランプ類
硝子板
油紙類
コンニヤク粉
柿澁
玉澁

大販賣所

小澤（商標）商店

壽都町字大磯町

呉服太物商

㊅

壽都町字大磯町

内山喜兵衛

電話(十四番)

清酒釀造販賣

壽都町大磯町

松下仁吉

呉服太物

海陸物産

㊄醬油味噌釀造販賣

壽都町字大磯町

松井回漕店主

㊄

松井源内商店

電話(十五番)

電署(マツ井)又ハ(〇五)

歌棄郡湖路村

松井清酒醬油釀造場

北海道機械網株式會社製

綿糸類

米穀荒物雜貨

海陸物産問屋

◇一

歌棄郡歌棄村字湖路村

水江外吉

電署(ミ)

●米穀荒物雜貨

一△

磯谷郡磯谷村

大字横間村字山ノ上

船木良助

●海陸物産問屋

ブリキ細工
トタン屋根請負
ペンキ塗
古着類

壽都港大磯町

㊔ 櫻井增太郎

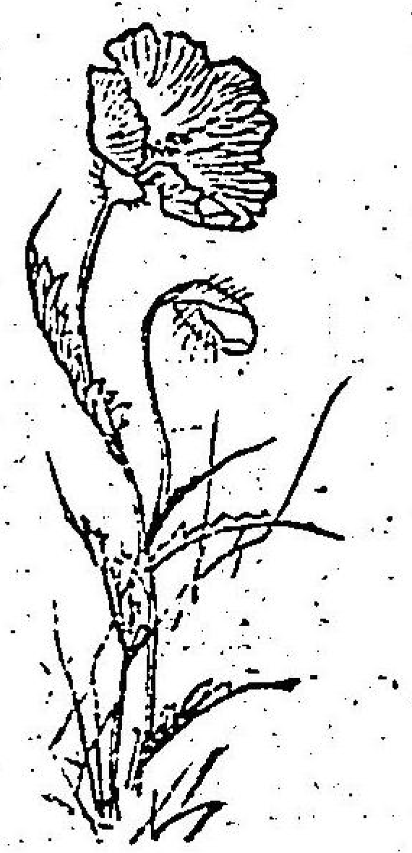
電署(サク)又ハ(サ)

菓子製造
れろし小賣商

藤田屋
竹林堂

㋣ 藤田脩三

壽都港大磯町



上 音羽樓

壽都港新榮町

樓主 上梶乙次郎

營業科目

藥種
賣藥
筆墨硯
文房具
化粧品
ゴム印
小間物

各種

壽都港大磯町

大盛堂

吉川十九太郎

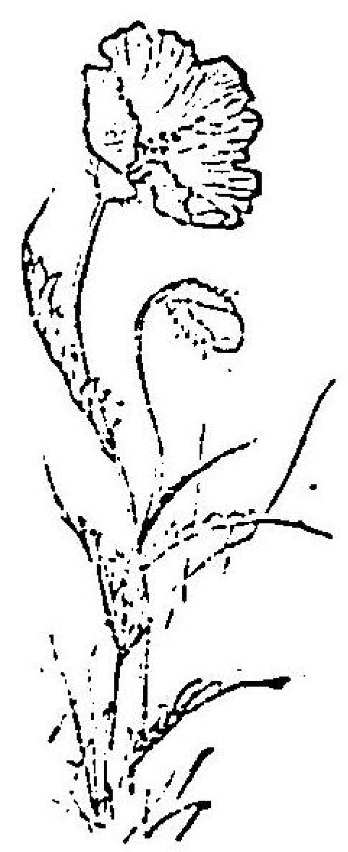
誠實勉強直段正確

ブリキ細工
トタン屋根請負
ペンキ塗
古着類

壽都港大磯町
㊫櫻井增太郎
電話(サク)又ハ(サ)

菓子製造商
おろし小賣

藤田屋
竹林堂
藤田脩三
壽都港大磯町



壽都港新榮町
上音羽樓
樓主 上梶乙次郎

營業科目

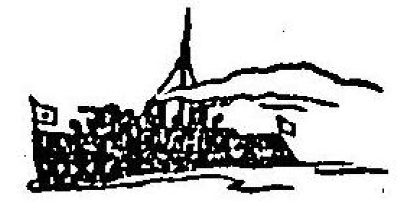
藥種
賣藥
筆墨硯
文房具
化粧品
ゴム印
小間物
各種

誠實勉强直段正確

壽都港
大磯町
大盛堂
吉川十九太郎

壽都町大字大磯町

壽都汽船株式會社



業務確實懇切取扱

壽都町大字大磯町

壽都倉庫株式會社

商品案内

△内外雜貨△最新小間物
△化粧品△賣藥△文具類
△時計及附屬品　卸小賣

壽都大磯町三番地

松榮堂

松田商店

壽都名所寫眞及繪はかき發行所諸新聞取次所

海陸軍用旅舍

中川旅館

壽都町字大磯町

郵便局側波止場前

海陸物産鮮魚

壽都港大磯町

薄田商店

店主　薄田太藏

電話（二十六番）

銘酒　由野川　金峯山

釀造販賣

壽都町大字新榮町

豊原由太郎

土木請負
建具小細工
製造業

壽都町字渡島町三十一番地

畑中佐一

●客室清潔
●待遇懇切

タ 土田旅館

黒松内停車場前

壽都、歌棄、磯谷、馬車取次所

高等旅館

黒松内驛停車場前

及川旅館

壽都、歌棄、磯谷方面
馬車取次所

農産賣買
荒物雑貨商

熱郛停車場前

旅人宿 大野定藏

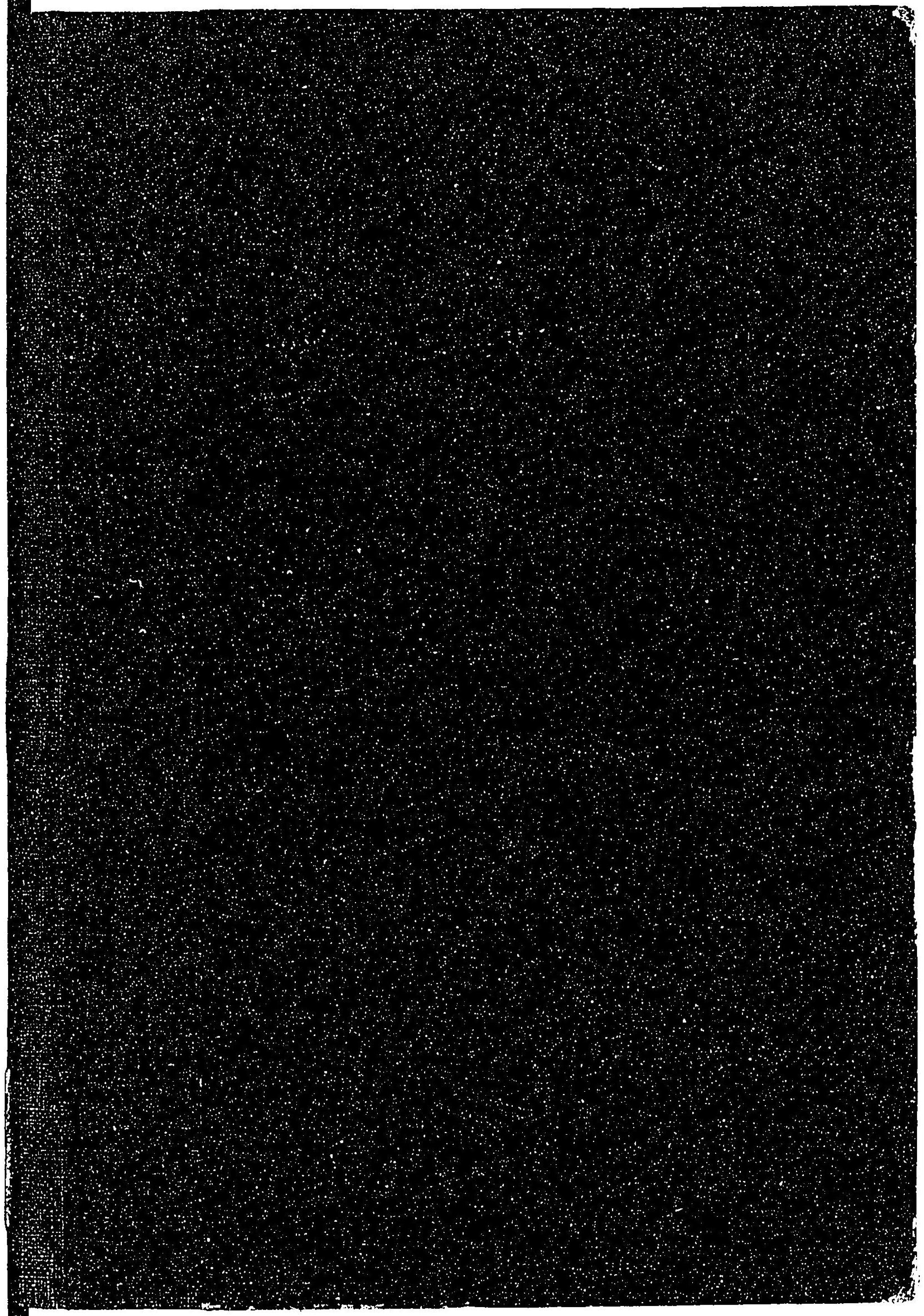
米穀醤油
荒物農産
委托賣買

山田支店

壽都郡
黒松内驛

電話(ヤマキタ)又ハ(ヤ)

88
313



88
313

023200-000-0

88-313

後志国要覧

北海出版社／編

M42

ADC-0037